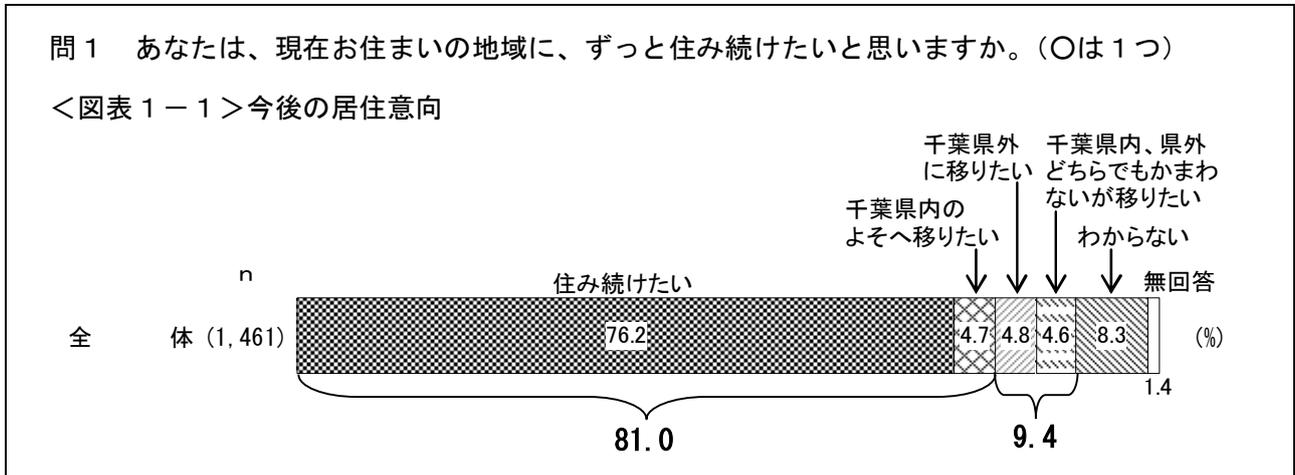


調査の結果 調査結果の解説

1 環境と生活について

(1) 今後の居留意向

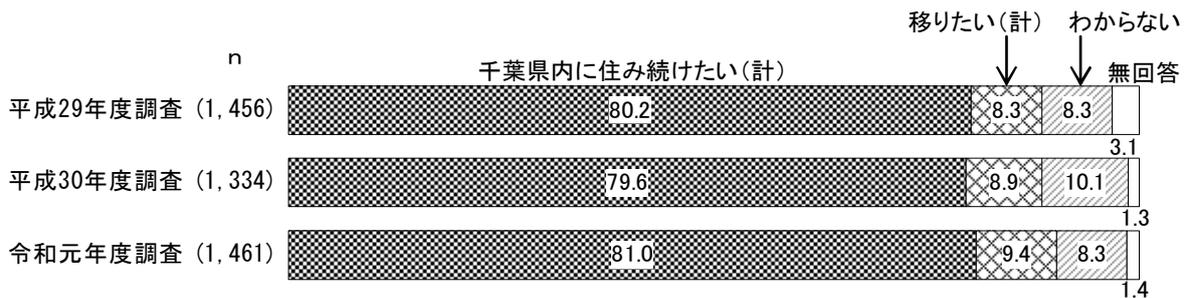
◇『千葉県内に住み続けたい（計）』が8割を超える



現在お住まいの地域の今後の居留意向を聞いたところ、「住み続けたい」（76.2%）が7割台半ばで、これと「千葉県内のよそへ移りたい」（4.7%）を合わせた『千葉県内に住み続けたい（計）』（81.0%）が8割を超えて高くなっている。

一方、「千葉県外に移りたい」（4.8%）と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」（4.6%）を合わせた『移りたい（計）』（9.4%）が1割未満である。（図表1-1）

【参考】平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

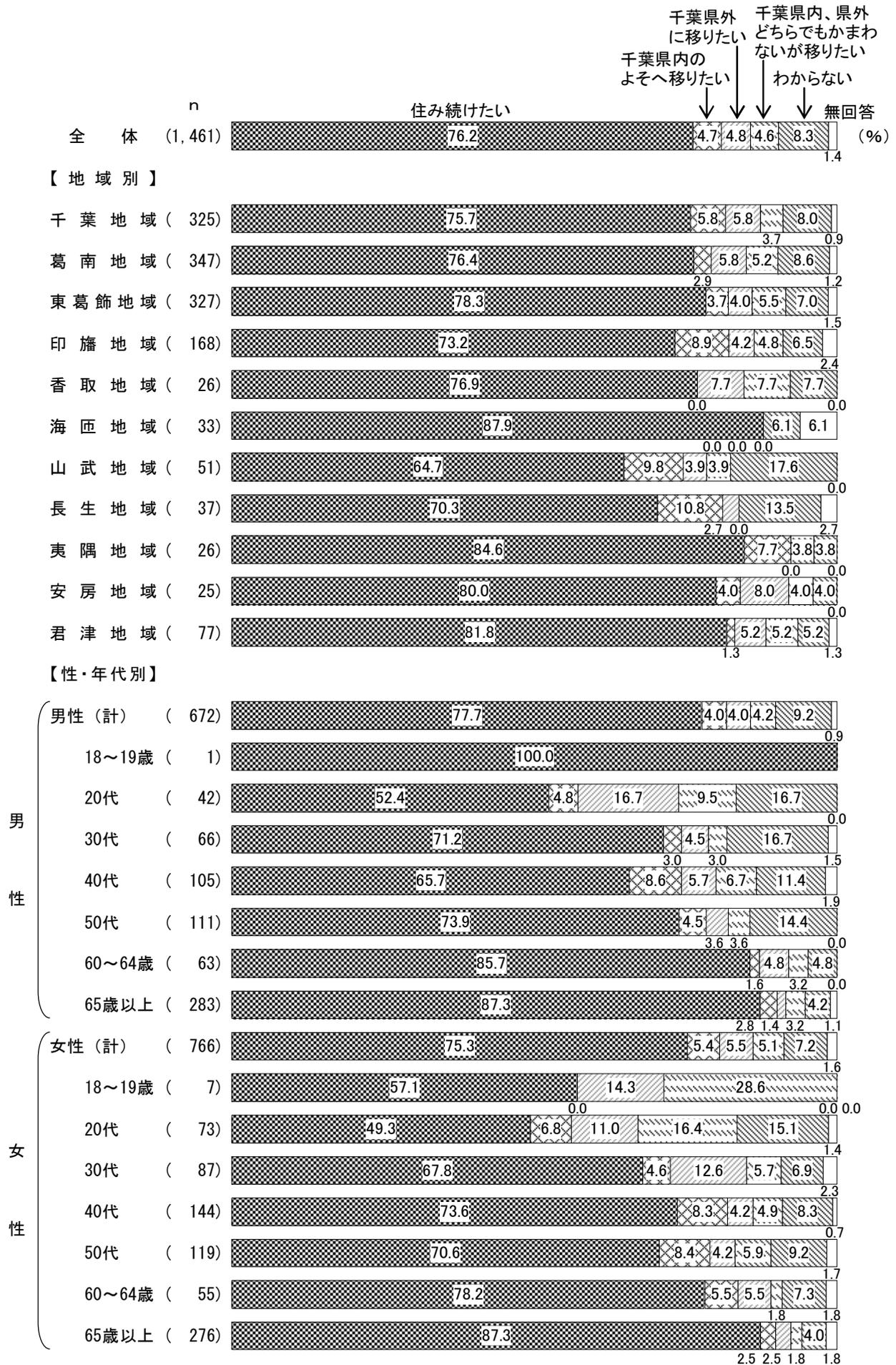
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表1-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『千葉県内に住み続けたい（計）』は男性の65歳以上（90.1%）が9割、女性の65歳以上（89.9%）が約9割で高くなっている。

一方、『移りたい（計）』は女性の20代（27.4%）が約3割、男性の20代（26.2%）が2割台半ばで高くなっている。（図表1-2）

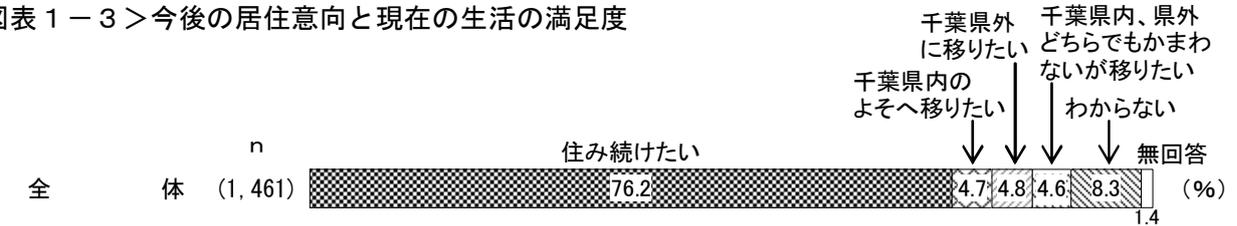
<図表1-2> 今後の居留意向／地域別、性・年代別



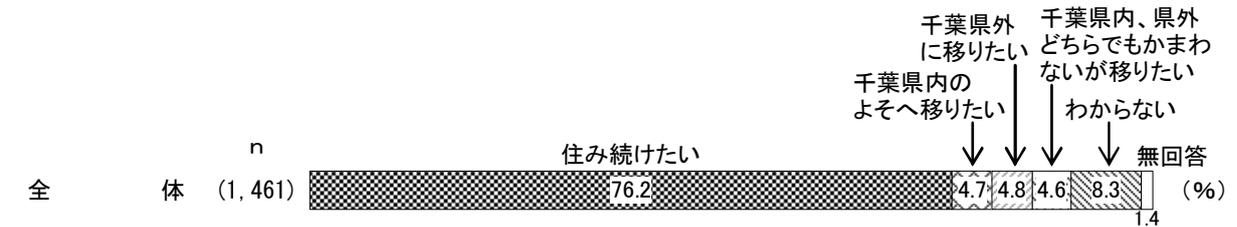
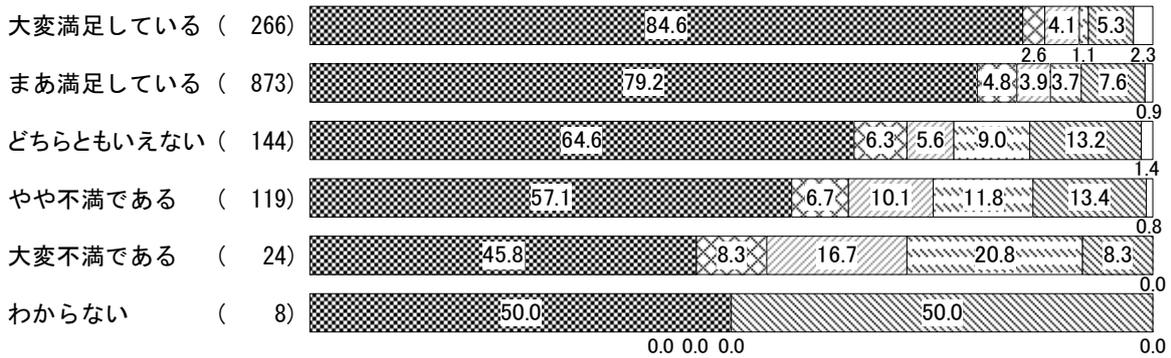
<今後の居留意向と現在の生活の満足度>

今後の居留意向について、今回の調査における、問2「現在の生活の満足度」の設問間のクロス集計を行ったところ、現在の生活の満足度が高いほど、「住み続けたい」という回答の割合が高くなる傾向にある。（図表1-3）

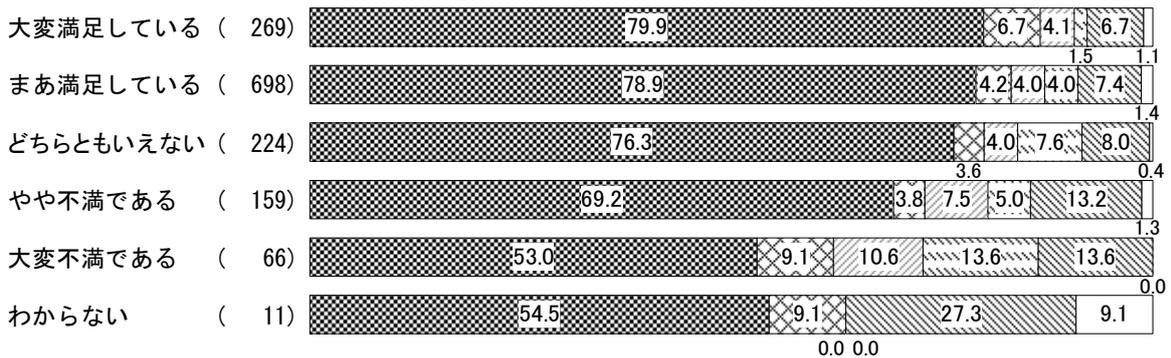
<図表1-3>今後の居留意向と現在の生活の満足度

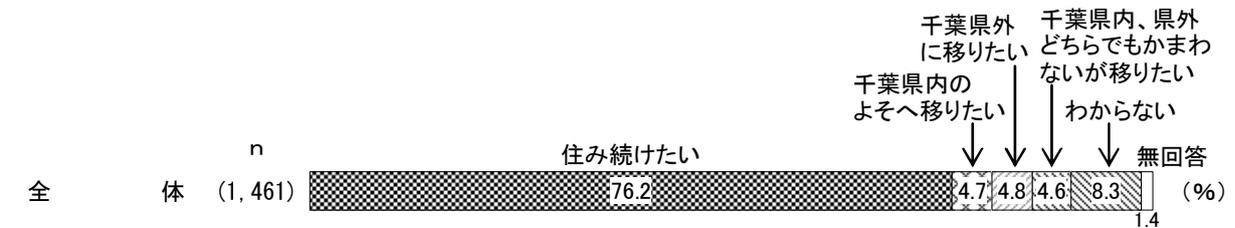


【「ごみ処理などの環境衛生」の満足度(問2(ア))別】

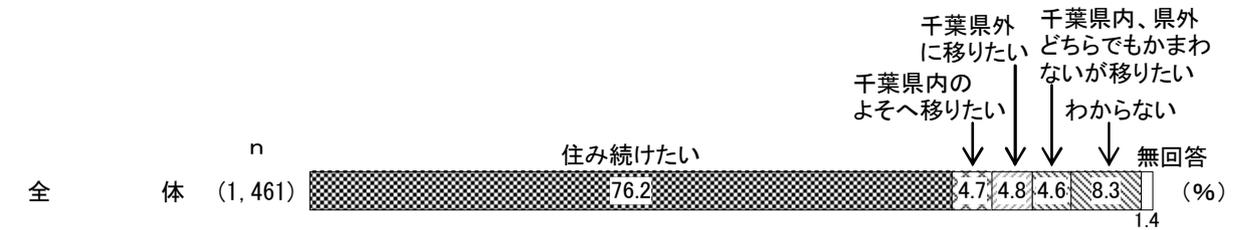
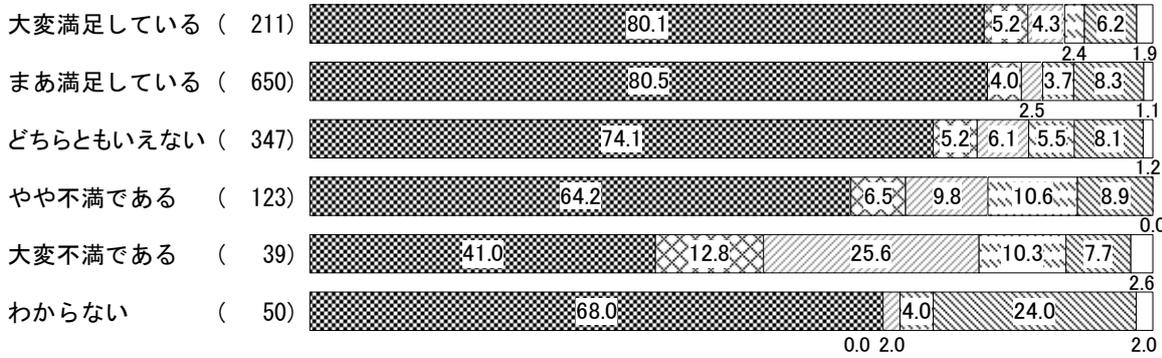


【「騒音・振動の状態」の満足度(問2(イ))別】

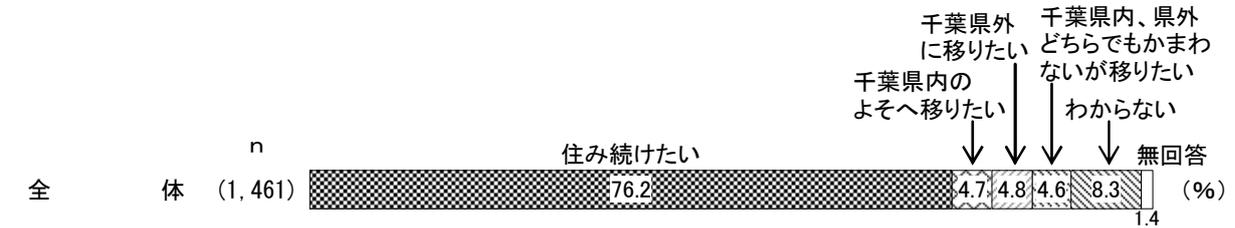
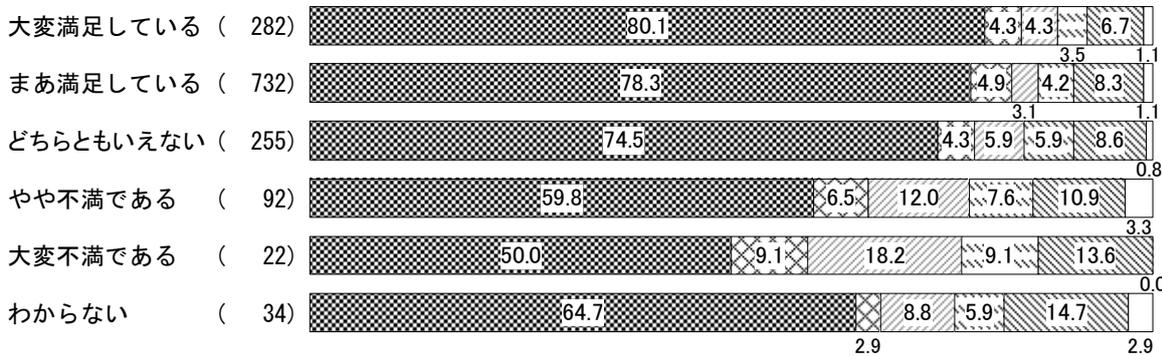




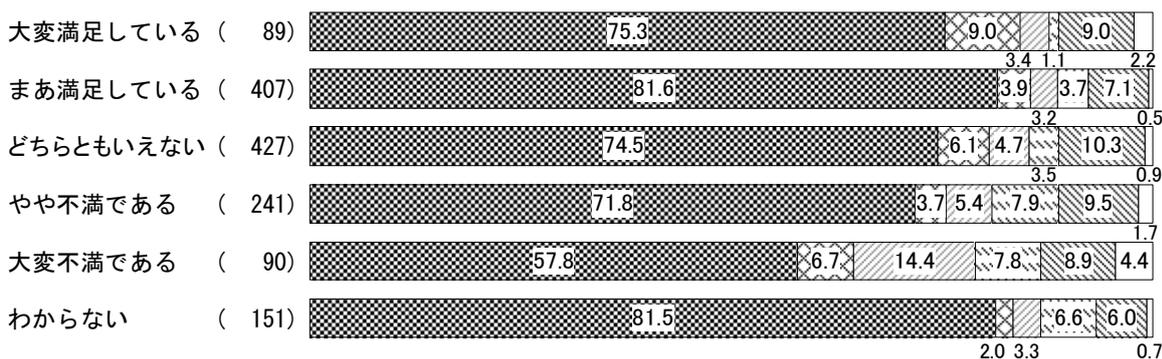
【「大気汚染の状態」の満足度(問2(ウ))別】

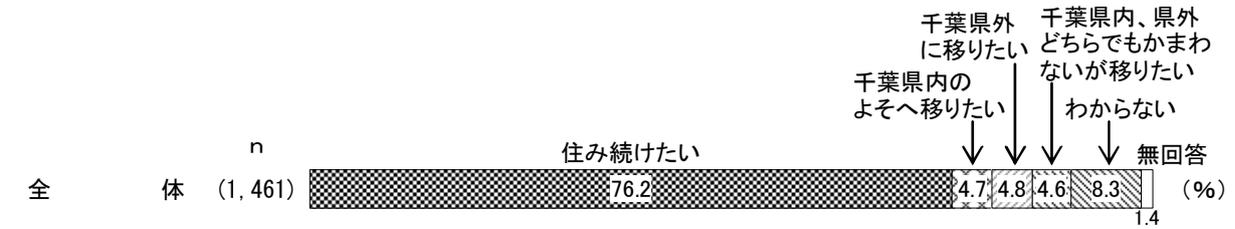


【「悪臭の状態」の満足度(問2(エ))別】

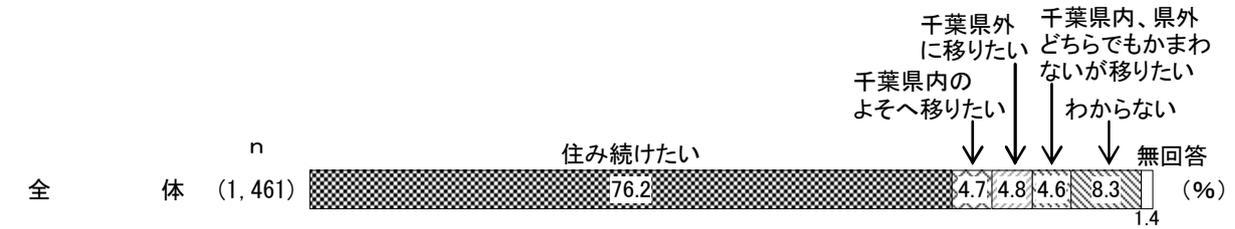
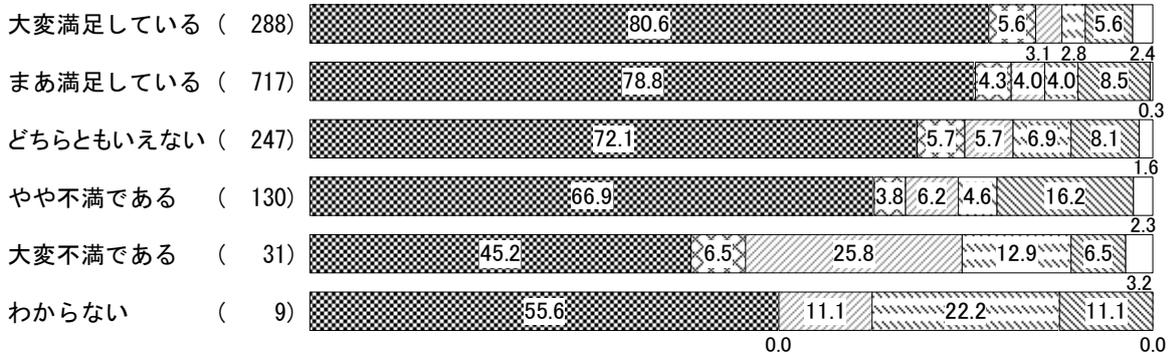


【「海・川などの汚れの状態」の満足度(問2(オ))別】

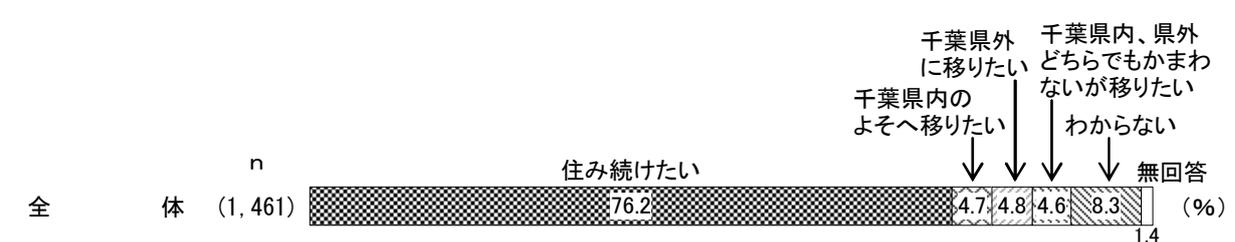
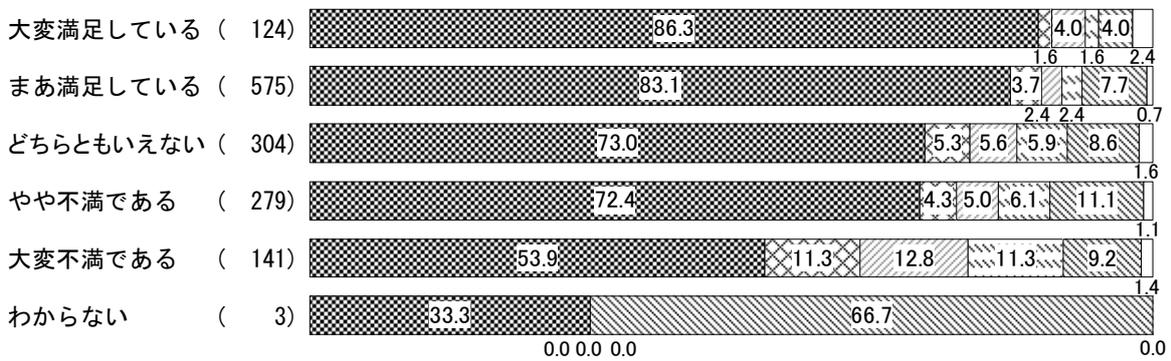




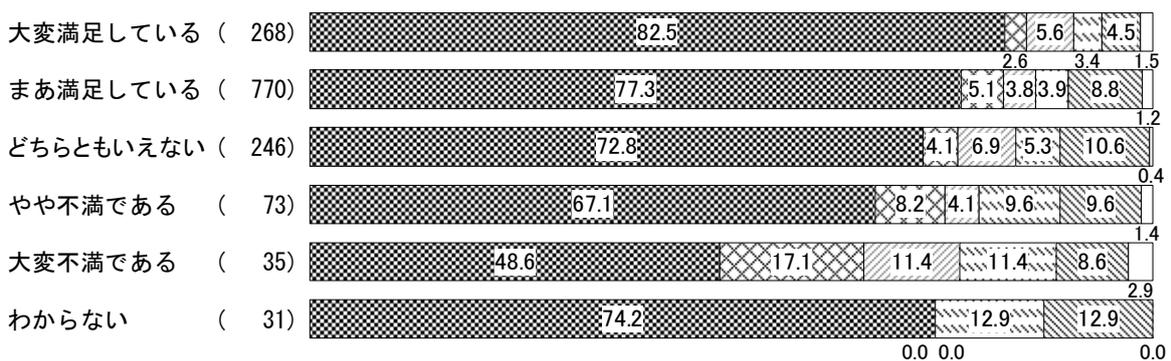
【「緑の豊かさ」の満足度(問2(カ))別】

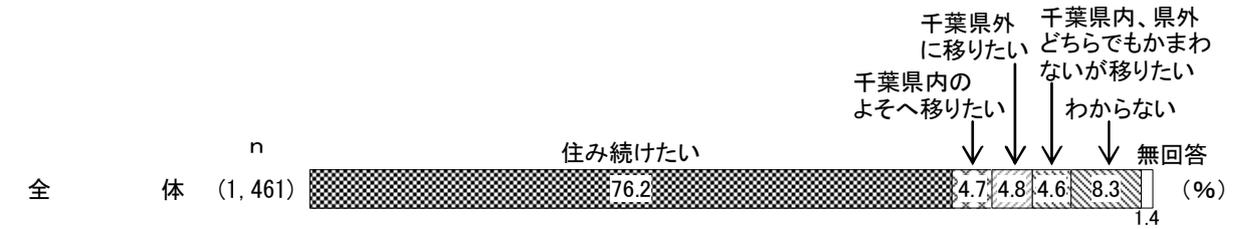


【「道路の整備」の満足度(問2(キ))別】

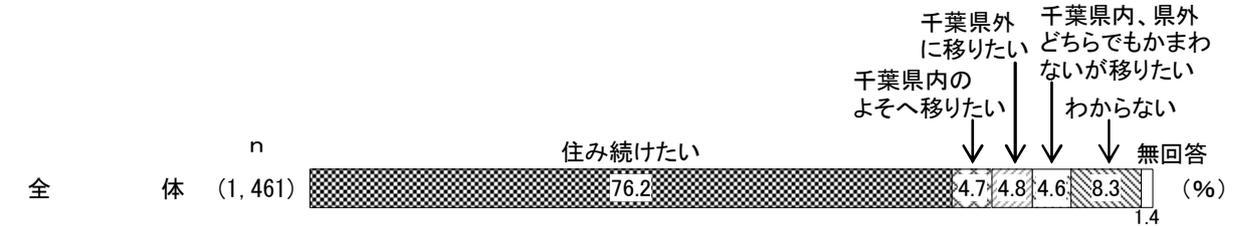
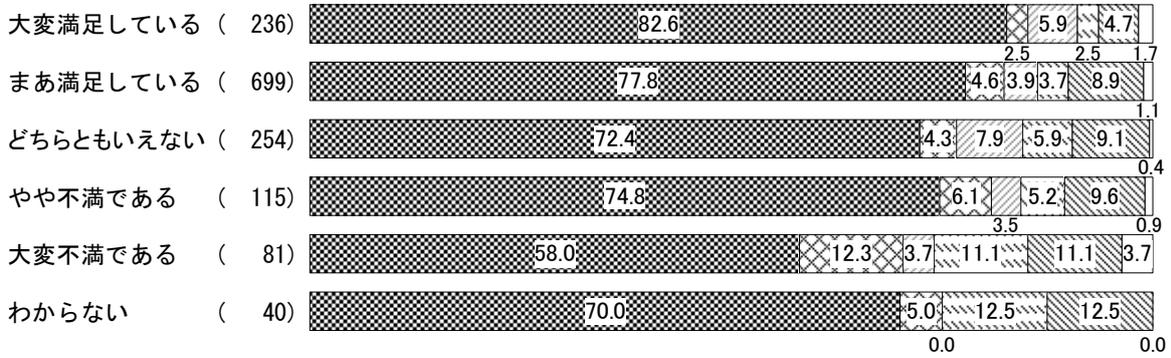


【「上水道の整備」の満足度(問2(ク))別】

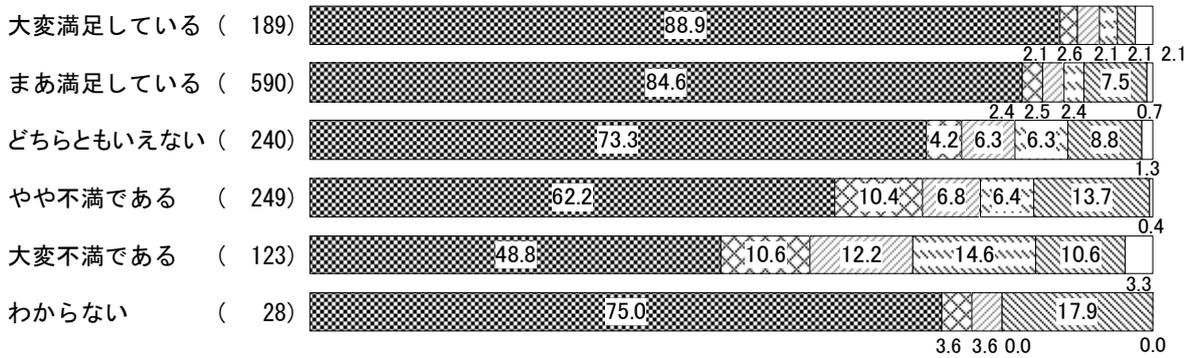




【「排水(下水道)の整備」の満足度(問2(ケ))別】



【「通勤・通学の便」の満足度(問2(コ))別】



（1-1）住み続けたい理由

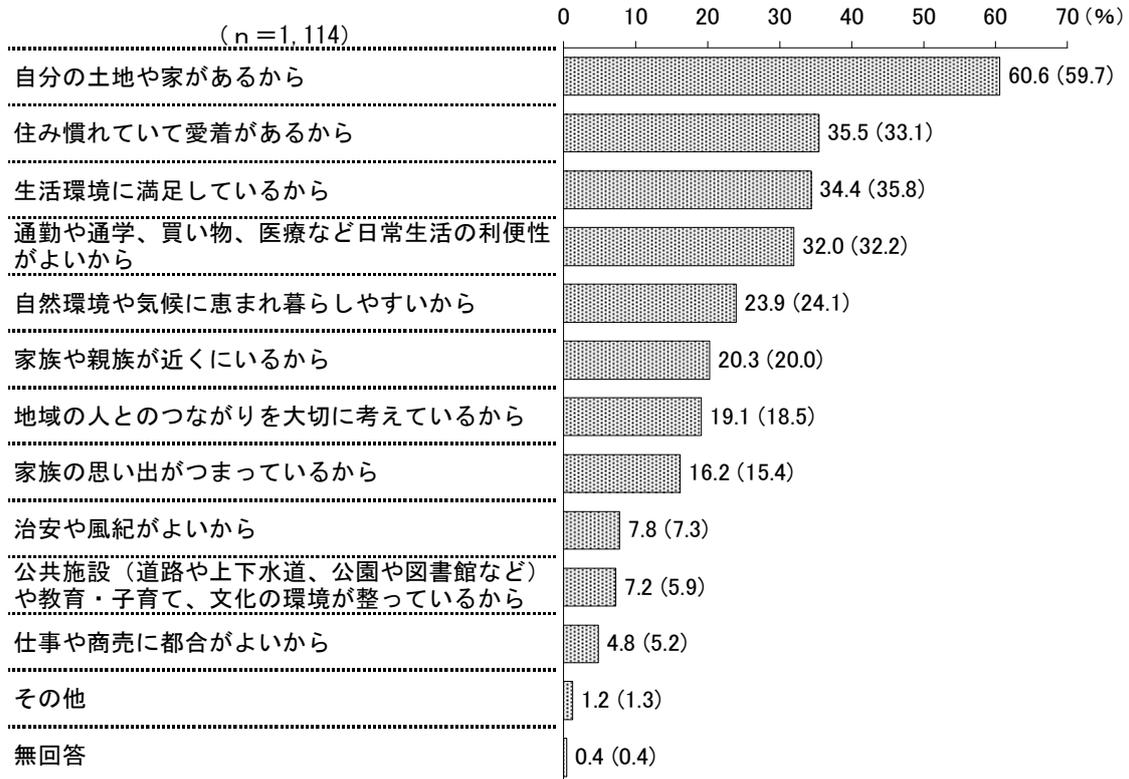
◇「自分の土地や家があるから」が6割

（問1で「住み続けたい」とお答えの方に）

問1-1 あなたが現在お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思う理由は何ですか。

（○は3つまで）

<図表1-4>住み続けたい理由（3つまでの複数回答）



注) () の数字は平成30年度の同様の項目による調査結果 n=979

「住み続けたい」と回答した1,114人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(60.6%)が6割で最も高く、以下、「住み慣れていて愛着があるから」(35.5%)、「生活環境に満足しているから」(34.4%)が続く。(図表1-4)

【地域別】

地域別にみると、「自分の土地や家があるから」は“海匠地域”(82.8%)が8割を超えて高くなっている。

「住み慣れていて愛着があるから」は“山武地域”(66.7%)が6割台半ばで高くなっている。

「生活環境に満足しているから」は“千葉地域”(43.1%)が4割を超えて高くなっている。

(図表1-5)

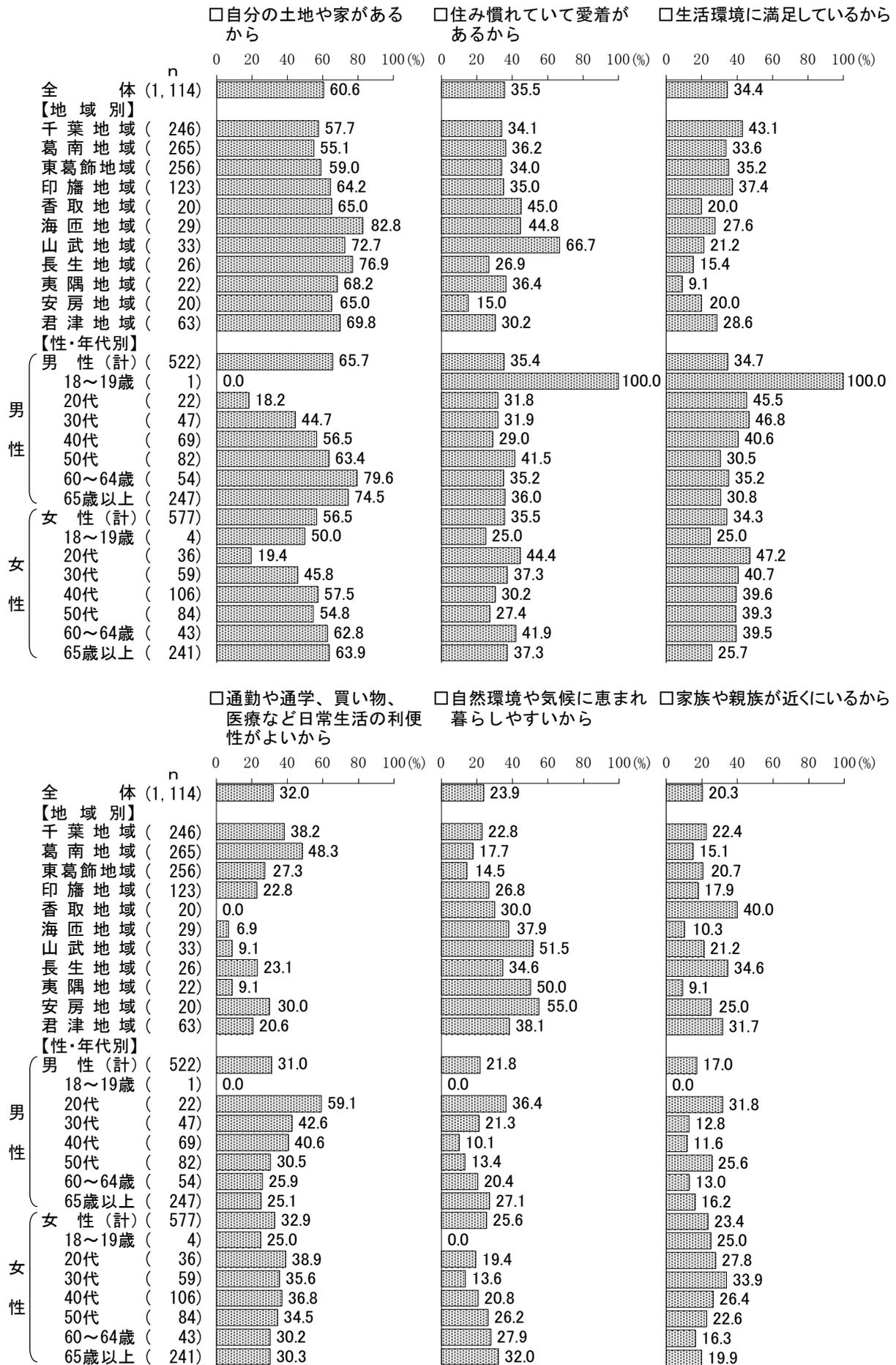
【性・年代別】

性・年代別にみると、「自分の土地や家があるから」は男性の60～64歳(79.6%)が約8割、男性の65歳以上(74.5%)が7割台半ばで高くなっている。

「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから」は男性の20代(59.1%)が約6割で高くなっている。

「自然環境や気候に恵まれ暮らしやすいから」は女性の65歳以上(32.0%)が3割を超えて高くなっている。(図表1-5)

<図表1-5> 住み続けたい理由（3つまでの複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



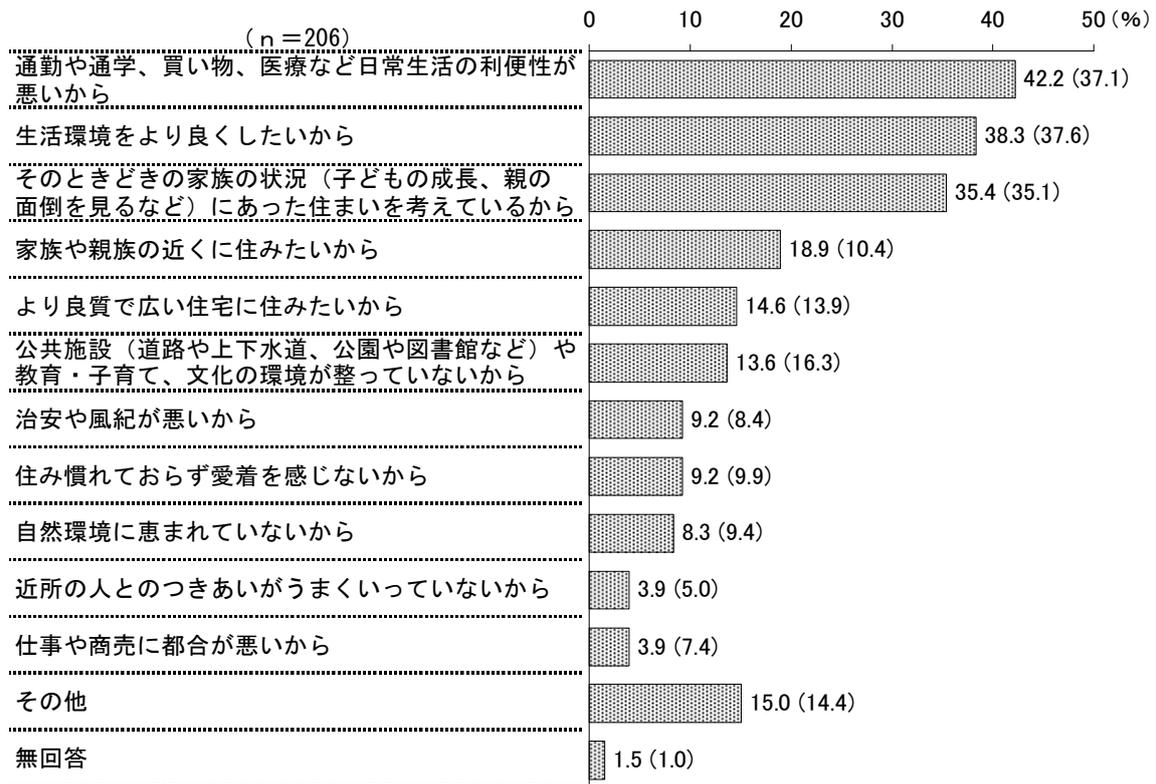
（1－2）移りたい理由

◇「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから」が4割を超える

（問1で「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」のいずれかをお答えの方に）

問1－2 あなたが現在お住まいの地域から移りたいと思う理由は何ですか。（○は3つまで）

<図表1－6>移りたい理由（3つまでの複数回答）

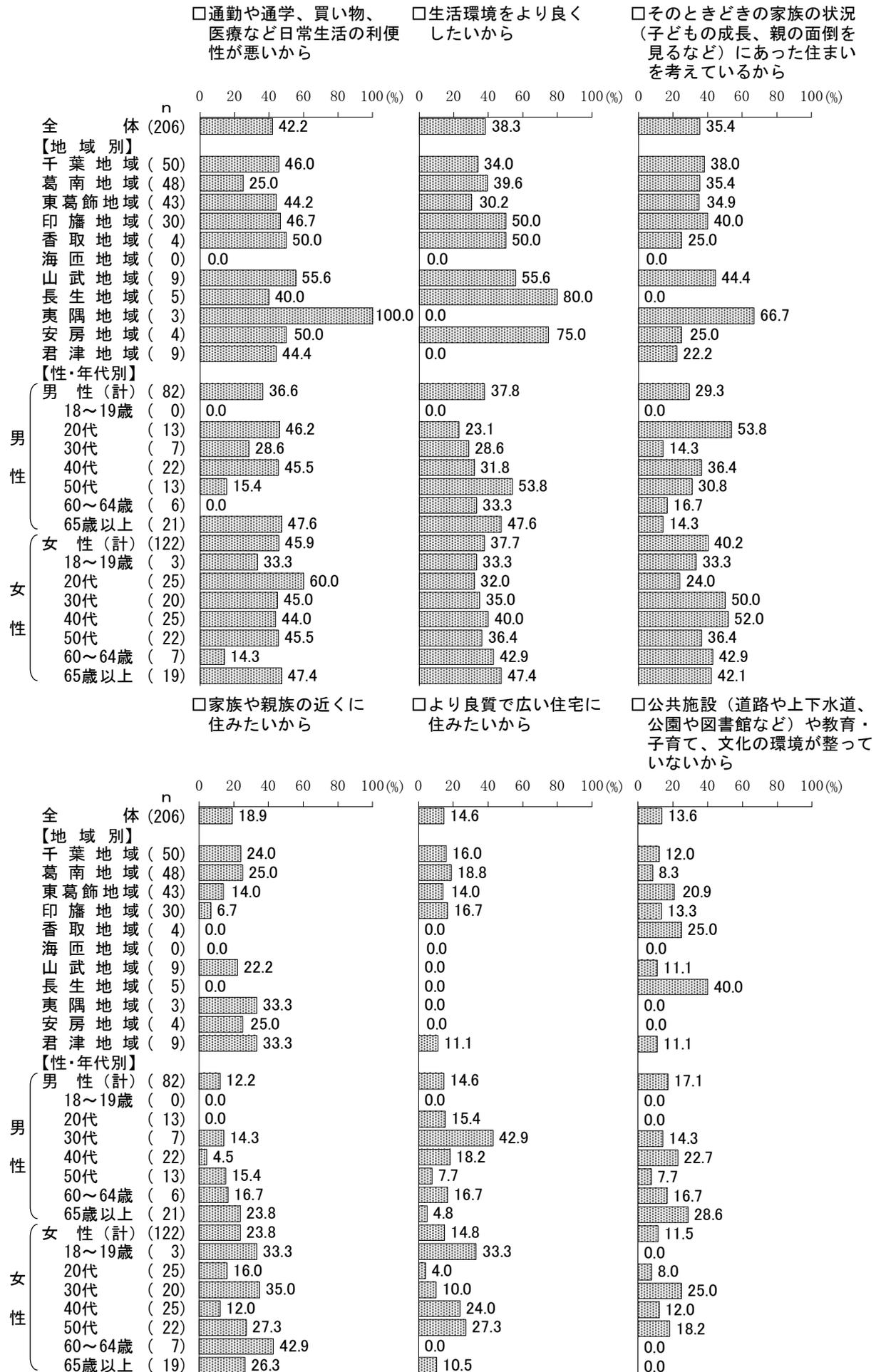


注) () の数字は平成30年度の同様の項目による調査結果 n=202

「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した206人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから」（42.2%）が4割を超えて最も高く、以下、「生活環境をより良くしたいから」（38.3%）、「そのときどきの家族の状況（子どもの成長、親の面倒を見るなど）にあった住まいを考えているから」（35.4%）が続く。（図表1－6）

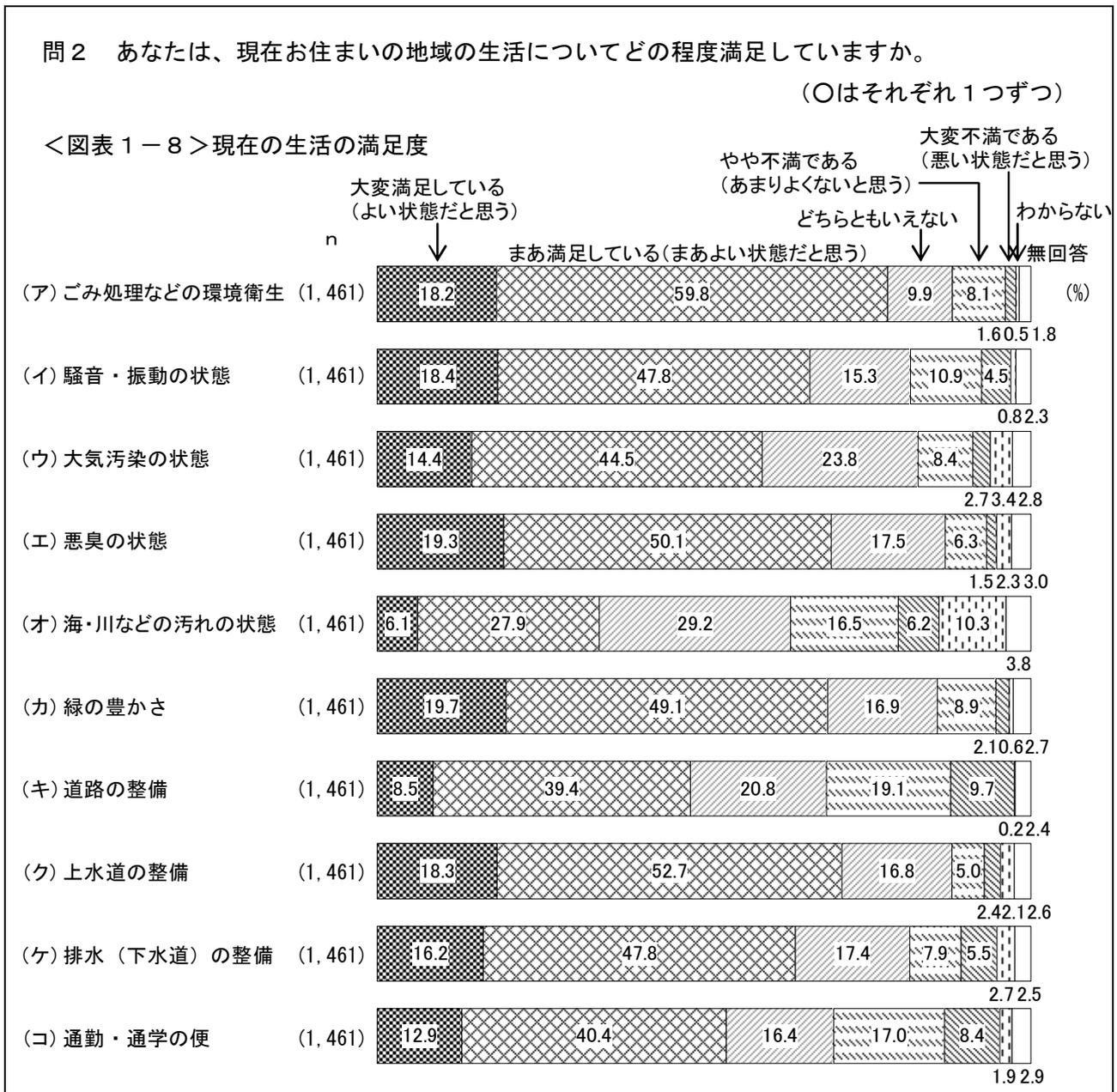
※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。
 （10ページ「報告書の見方（6）」を参照）
 （図表1－7）

<図表1-7>移りたい理由（3つまでの複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



（2）現在の生活の満足度

◇『満足している（計）』が最も高いのは〈ごみ処理などの環境衛生〉で約8割

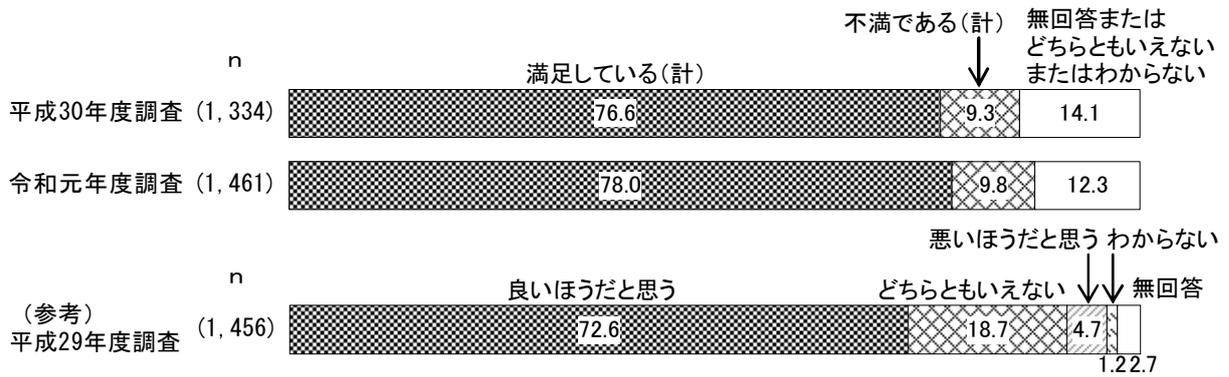


現在の生活に関する10個の項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している（よい状態だと思う）」と「まあ満足している（まあよい状態だと思う）」を合わせた『満足している（計）』が最も高いのは、「(ア) ごみ処理などの環境衛生」(78.0%)で約8割となっており、以下、「(ク) 上水道の整備」(71.0%)が7割を超え、「(エ) 悪臭の状態」(69.4%)、「(カ) 緑の豊かさ」(68.8%)が約7割で続く。

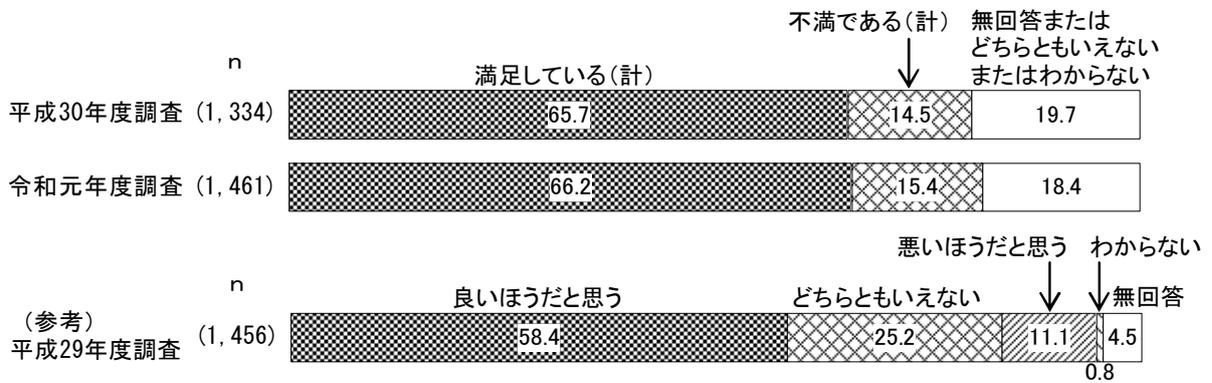
一方、「やや不満である（あまりよくないと思う）」と「大変不満である（悪い状態だと思う）」を合わせた『不満である（計）』が最も高いのは、「(キ) 道路の整備」(28.7%)で約3割となっており、以下、「(コ) 通勤・通学の便」(25.5%)が2割台半ば、「(オ) 海・川などの汚れの状態」(22.7%)が2割を超えて続く。(図表1-8)

〔参考〕平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

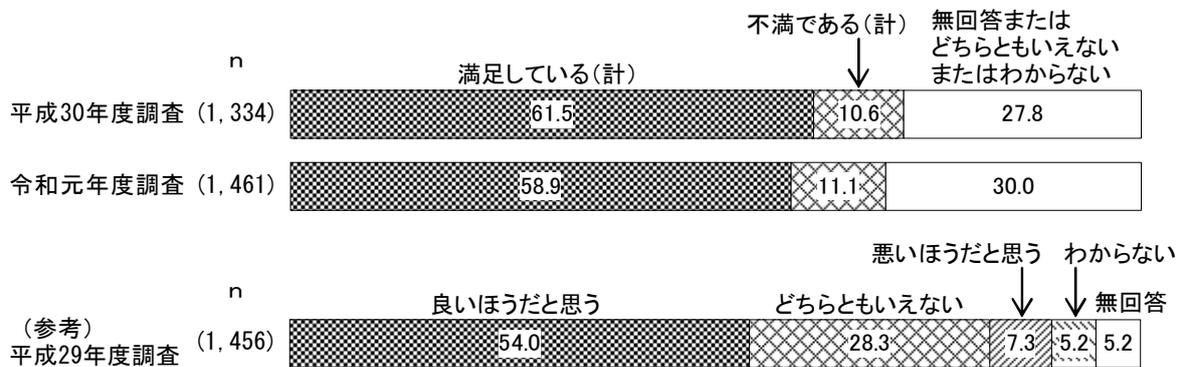
(ア) ごみ処理などの環境衛生



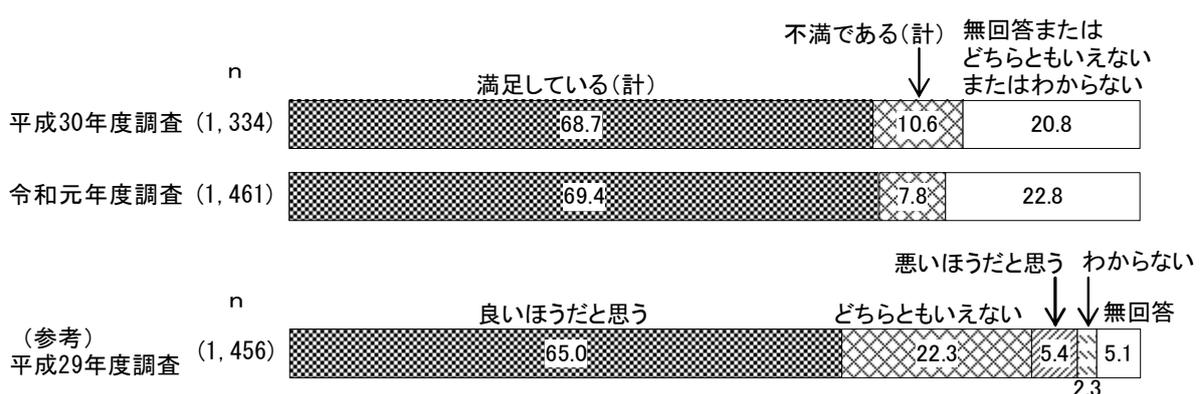
(イ) 騒音・振動の状態



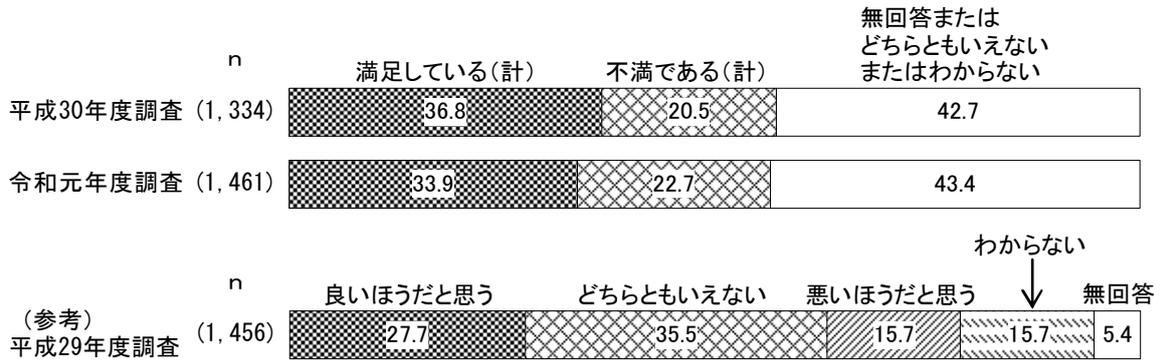
(ウ) 大気汚染の状態



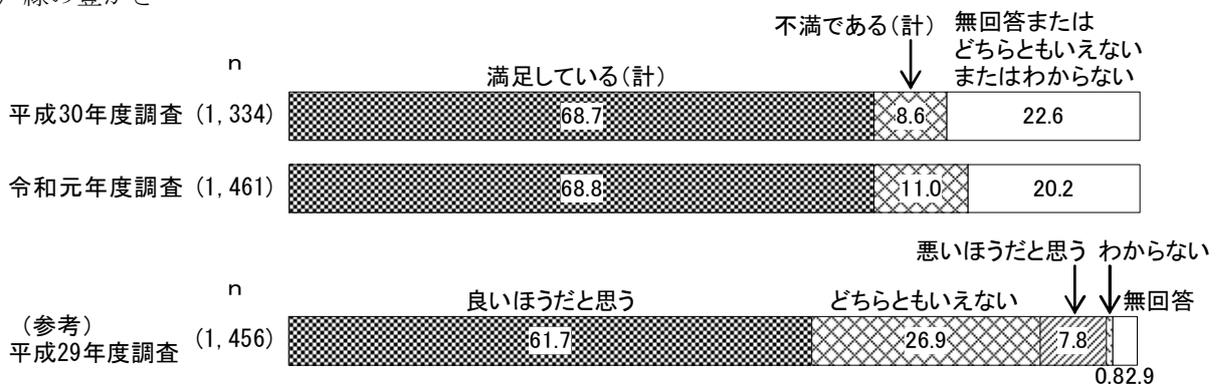
(エ) 悪臭の状態



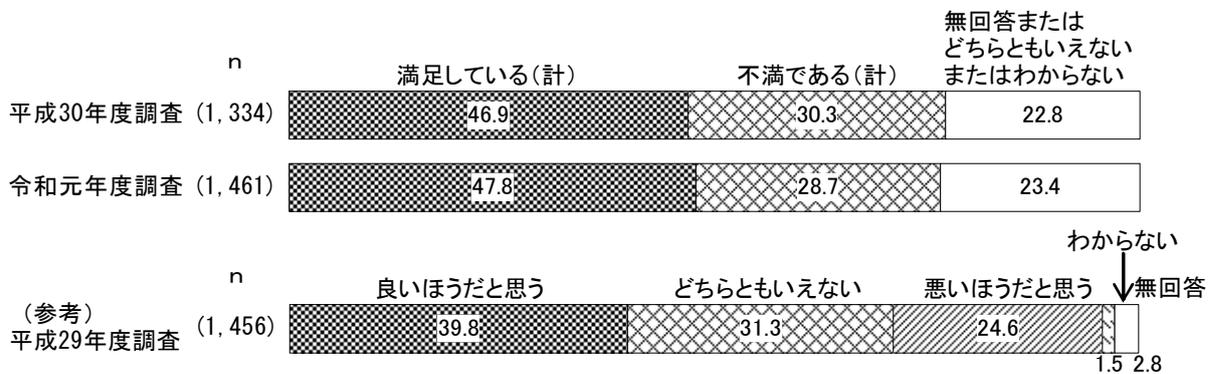
(オ) 海・川などの汚れの状態



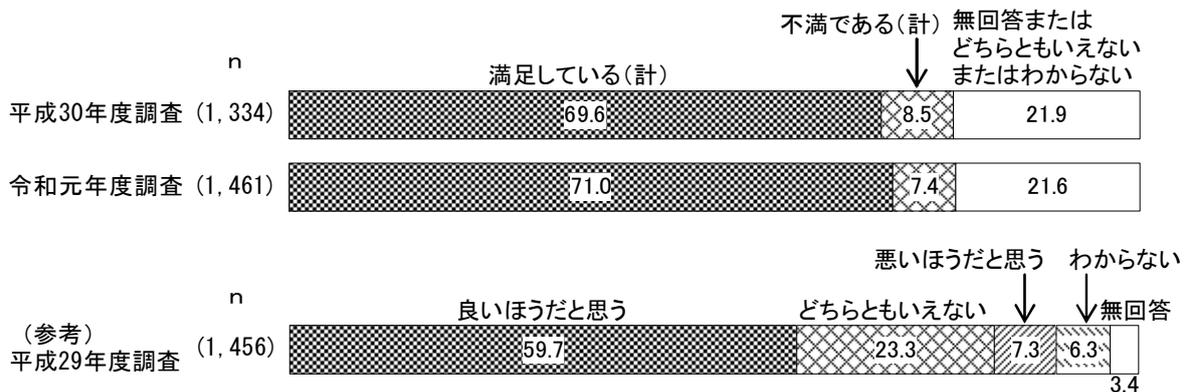
(カ) 緑の豊かさ



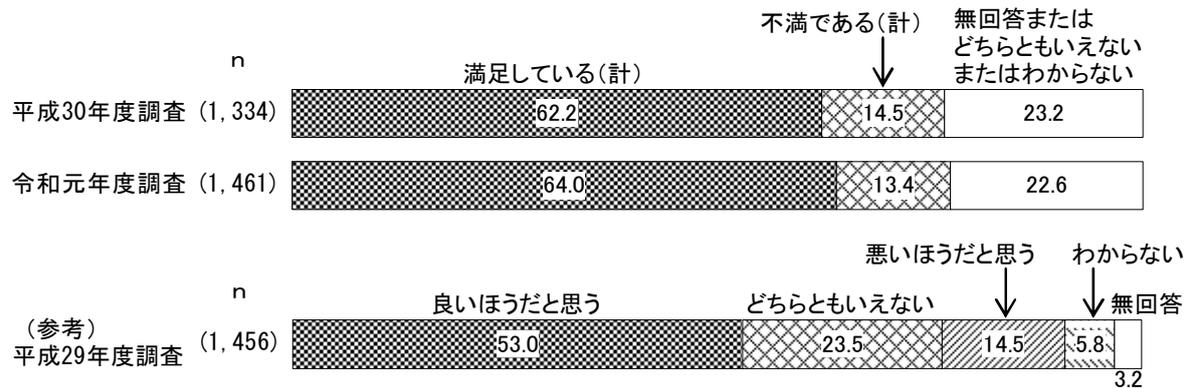
(キ) 道路の整備



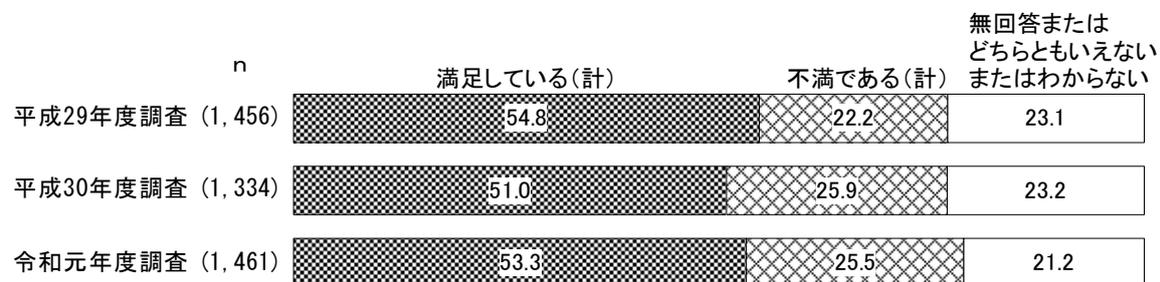
(ク) 上水道の整備



(ケ) 排水（下水道）の整備



(コ) 通勤・通学の便



【地域別】

地域別にみると、「(ウ) 大気汚染の状態」の『満足している(計)』は“安房地域”(88.0%)が約9割、“夷隅地域”(84.6%)が8割台半ばで高くなっている。

「(エ) 悪臭の状態」の『不満である(計)』は“香取地域”(26.9%)が2割台半ばで高くなっている。

「(オ) 海・川などの汚れの状態」の『不満である(計)』は“香取地域”(42.3%)が4割を超えて高くなっている。

「(カ) 緑の豊かさ」の『満足している(計)』は“安房地域”(88.0%)が約9割、“山武地域”(84.3%)が8割台半ば、“印旛地域”(83.3%)が8割を超えて高くなっている。

「(キ) 道路の整備」の『満足している(計)』は“千葉地域”(58.5%)が約6割で高くなっている。

一方、『不満である(計)』は“葛南地域”(37.2%)が約4割で高くなっている。

「(ク) 上水道の整備」の『満足している(計)』は“千葉地域”(80.0%)が8割、“東葛飾地域”(76.8%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、『不満である(計)』は“山武地域”(21.6%)が2割を超えて高くなっている。

「(ケ) 排水(下水道)の整備」の『満足している(計)』は“千葉地域”(76.0%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、『不満である(計)』は“香取地域”(42.3%)が4割を超え、“長生地域”(37.8%)が約4割、“山武地域”(35.3%)が3割台半ばで高くなっている。

「(コ) 通勤・通学の便」の『満足している(計)』は“葛南地域”(66.9%)が6割台半ばで高くなっている。

一方、『不満である(計)』は“夷隅地域”(50.0%)が5割、“山武地域”(45.1%)が4割台半ば、“印旛地域”(39.3%)が約4割で高くなっている。(図表1-9)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) ごみ処理などの環境衛生」の『満足している(計)』は男性の65歳以上(84.5%)と女性の65歳以上(84.4%)が8割台半ばで高くなっている。

「(イ) 騒音・振動の状態」の『不満である(計)』は男性の30代(25.8%)が2割台半ば、男性の40代(22.9%)が2割を超えて高くなっている。

「(ウ) 大気汚染の状態」の『満足している(計)』は男性の60~64歳(73.0%)が7割を超え、男性の65歳以上(68.6%)が約7割で高くなっている。

一方、『不満である(計)』は女性の30代(20.7%)が2割で高くなっている。

「(オ) 海・川などの汚れの状態」の『満足している(計)』は男性の60~64歳(46.0%)が4割台半ばで高くなっている。

一方、『不満である(計)』は女性の20代(32.9%)、女性の30代(33.3%)が3割を超えて高くなっている。

「(カ) 緑の豊かさ」の『満足している(計)』は男性の60~64歳(84.1%)が8割台半ばで高くなっている。

一方、『不満である(計)』は男性の30代(25.8%)が2割台半ばで高くなっている。

「(キ) 道路の整備」の『不満である(計)』は男性の40代(45.7%)が4割台半ば、女性の30代(39.1%)が約4割で高くなっている。

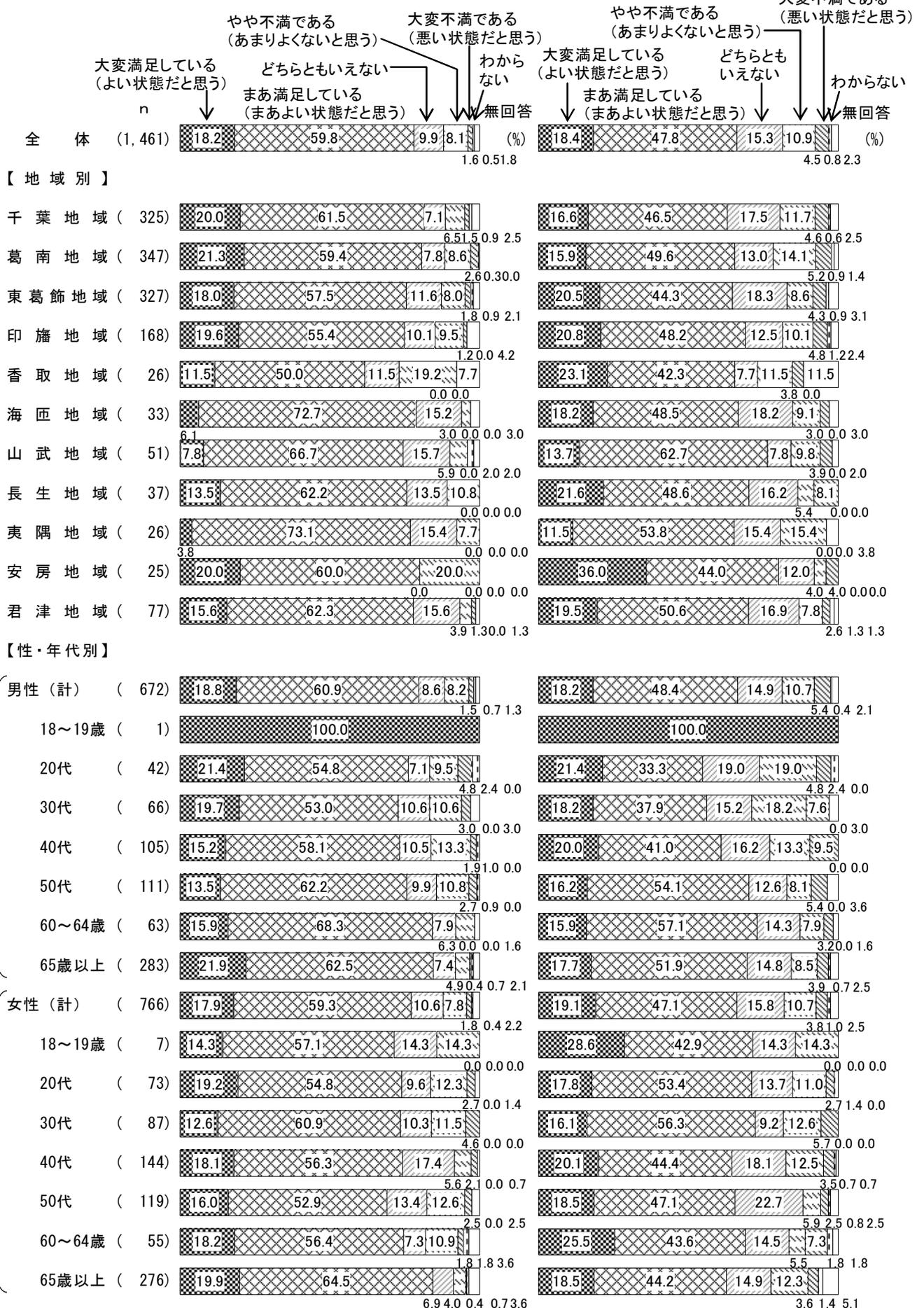
「(ケ) 排水(下水道)の整備」の『不満である(計)』は男性の50代(21.6%)が2割を超えて高くなっている。

「(コ) 通勤・通学の便」の『不満である(計)』は女性の20代(46.6%)が4割台半ば、男性の30代(37.9%)が約4割、女性の30代(36.8%)が3割台半ばで高くなっている。(図表1-9)

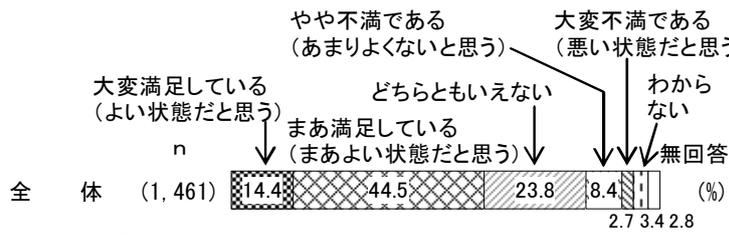
<図表1-9>現在の生活の満足度／地域別、性・年代別

(ア) ごみ処理などの環境衛生

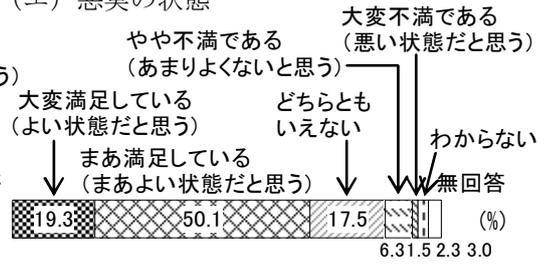
(イ) 騒音・振動の状態



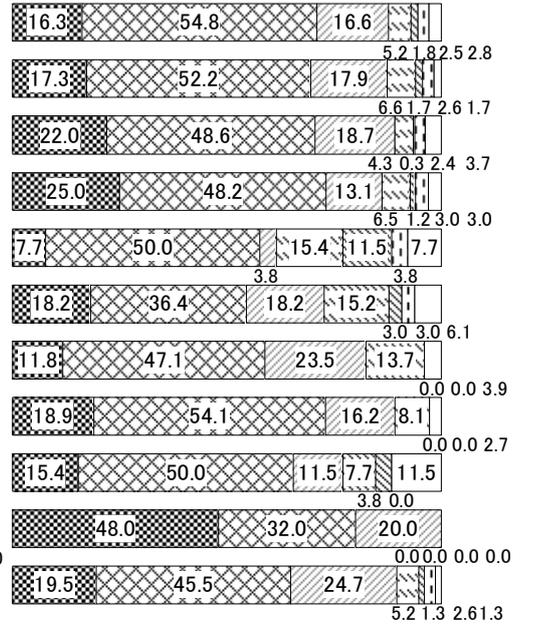
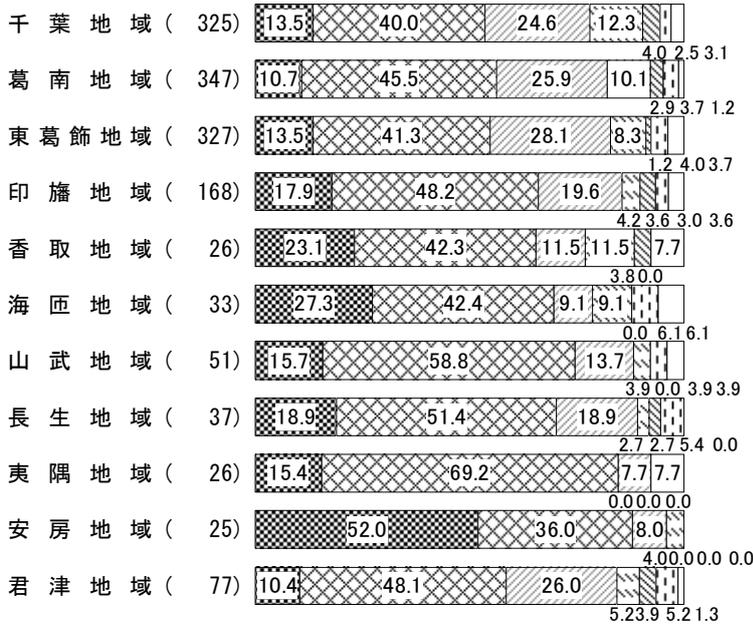
(ウ) 大気汚染の状態



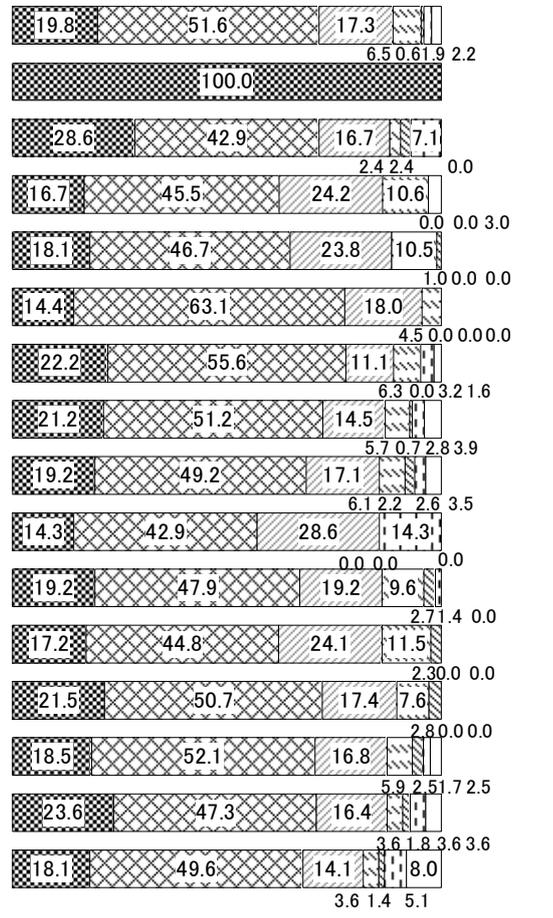
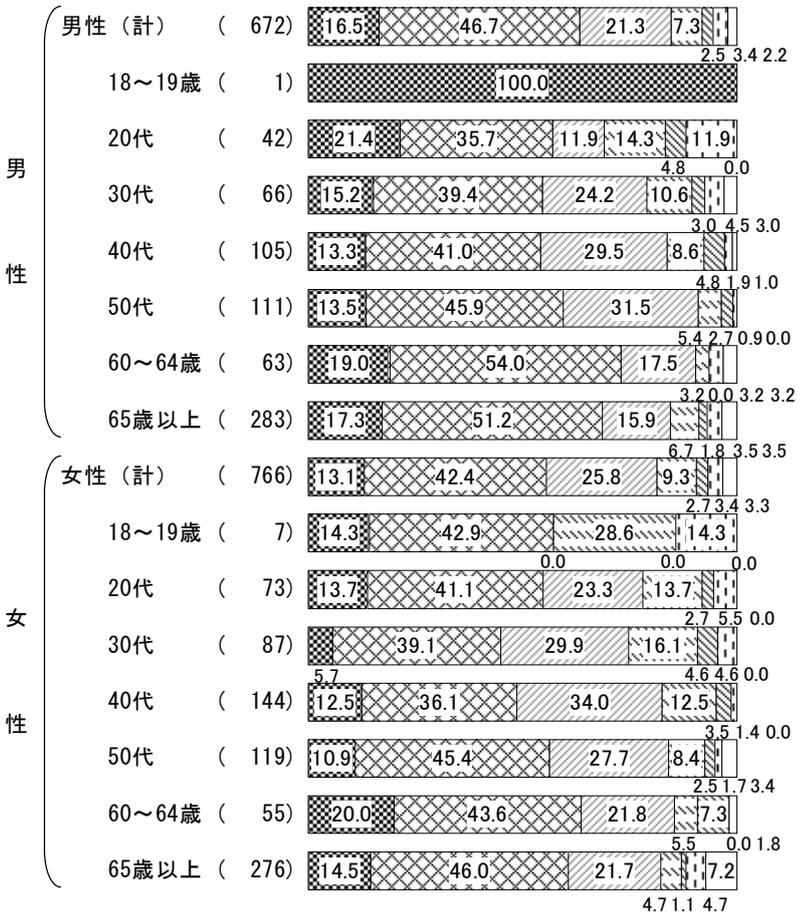
(エ) 悪臭の状態



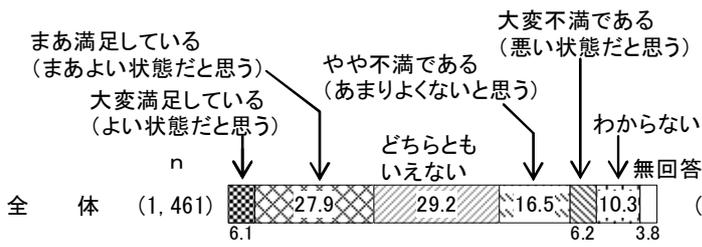
【地域別】



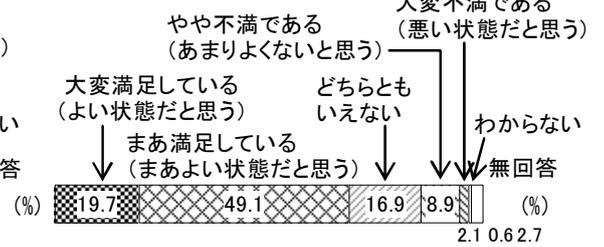
【性・年代別】



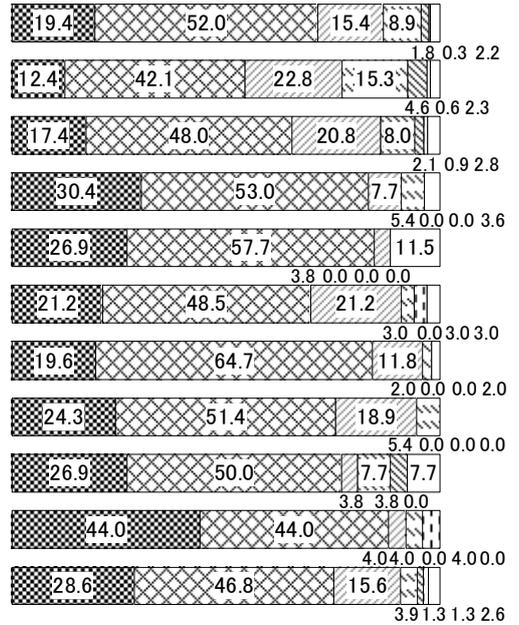
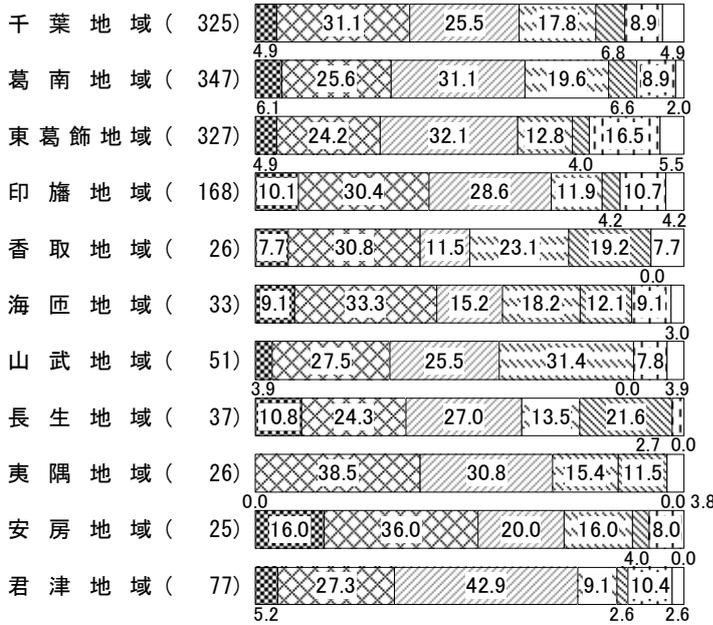
(オ) 海・川などの汚れの状態



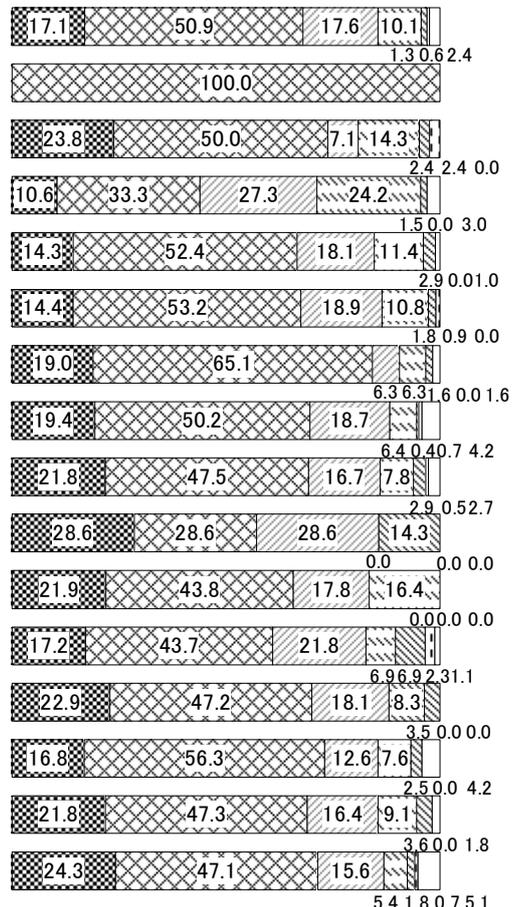
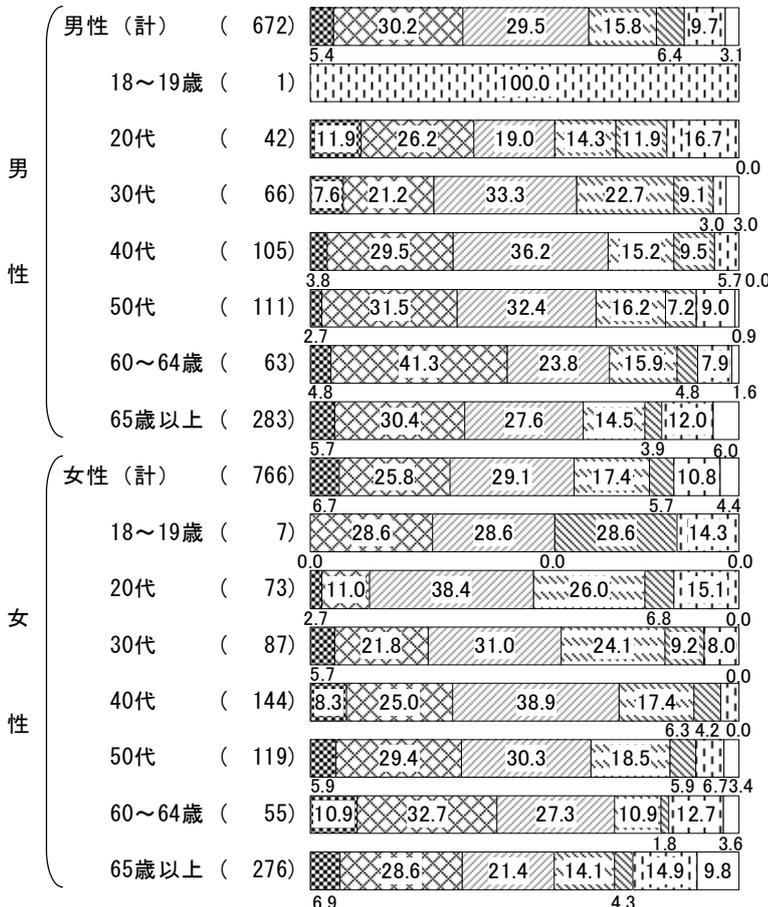
(カ) 緑の豊かさ

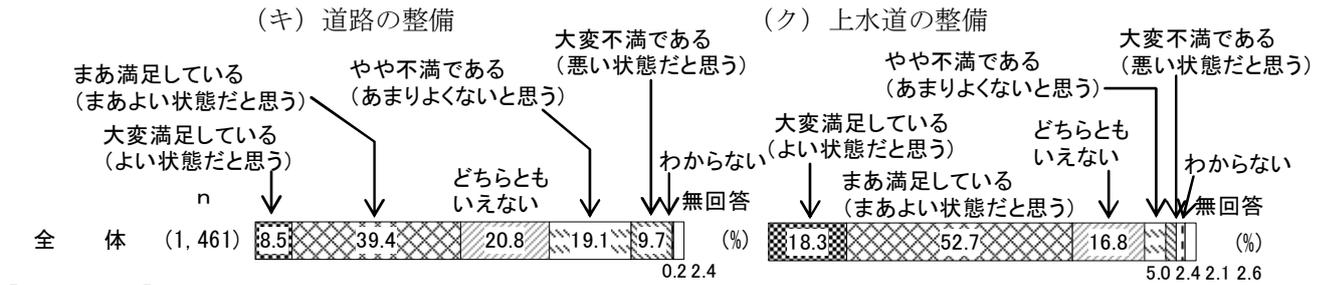


【地域別】

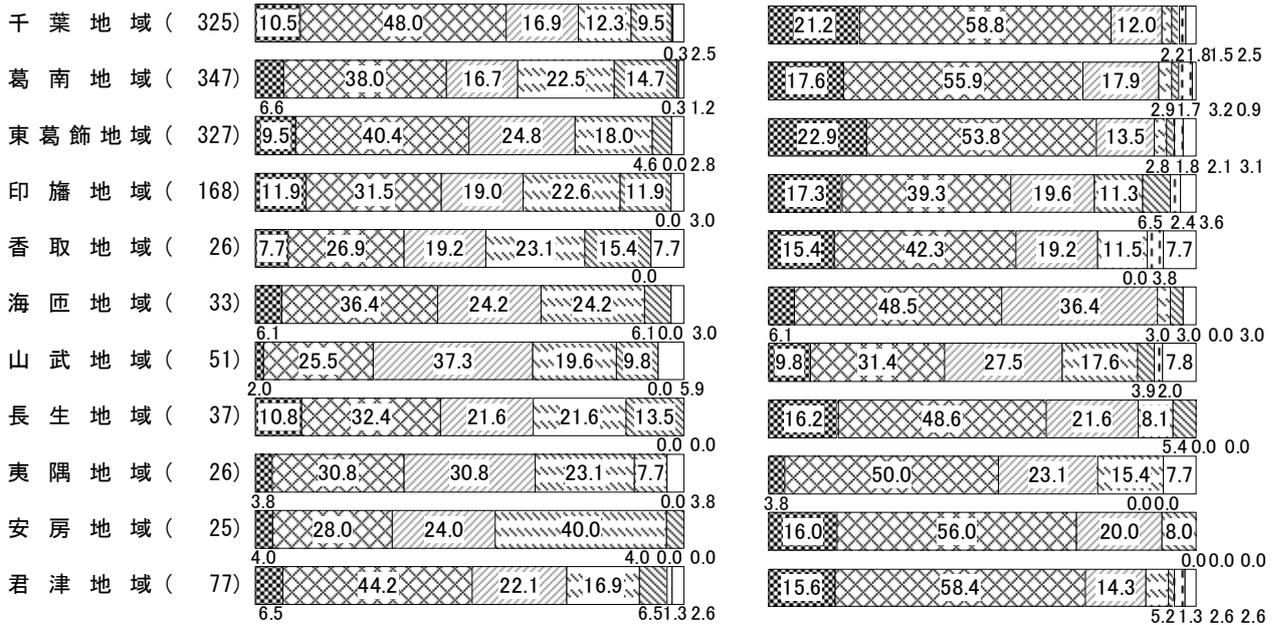


【性・年代別】

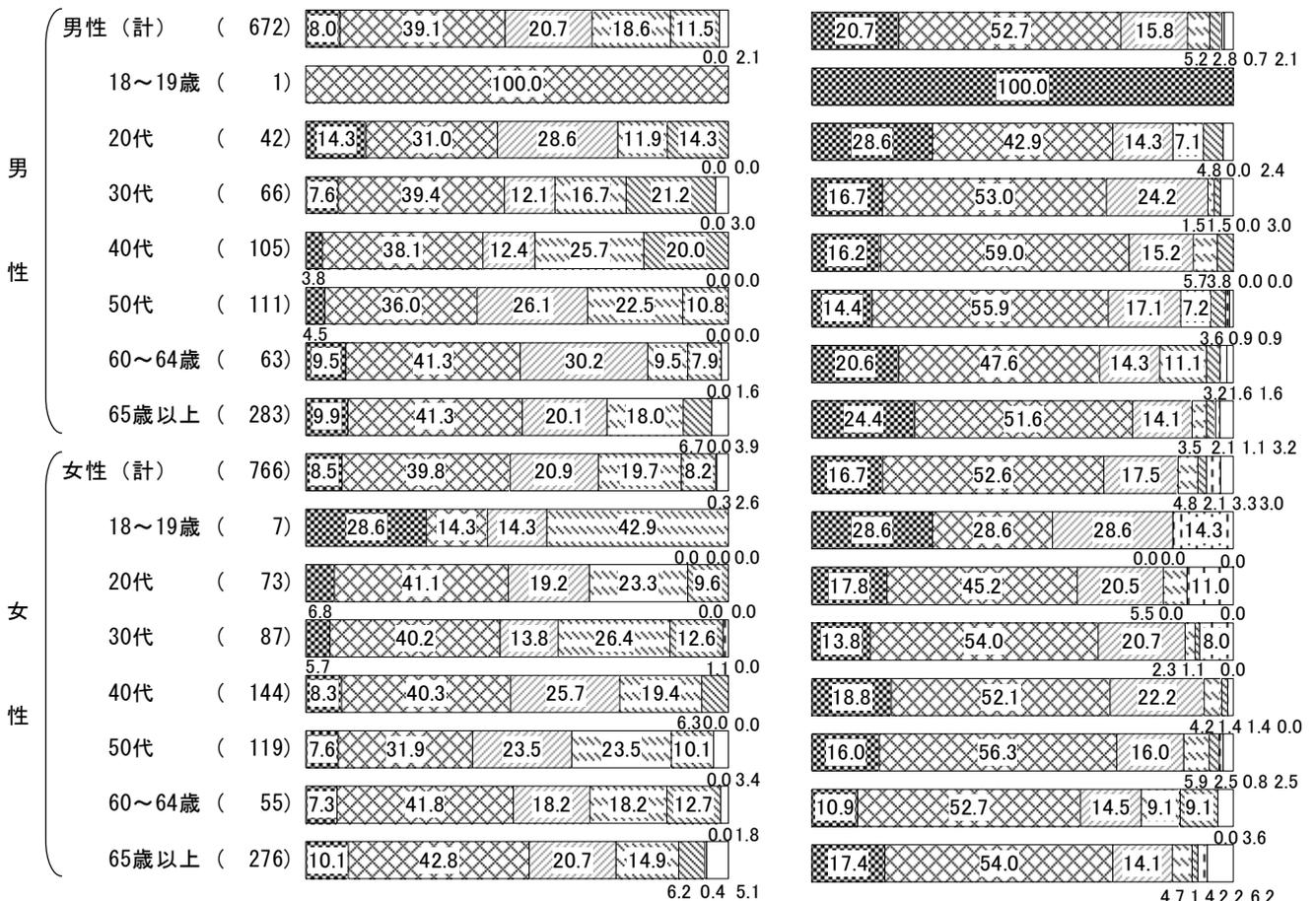




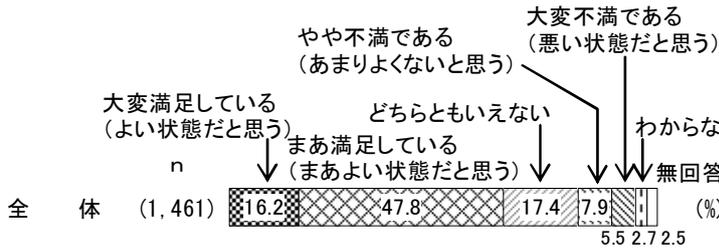
【地域別】



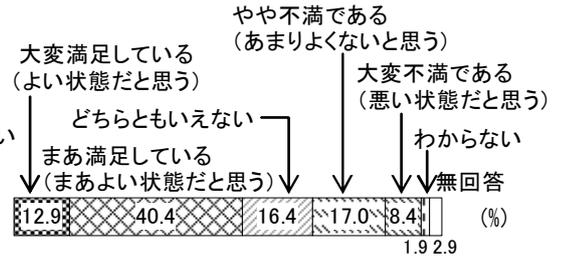
【性・年代別】



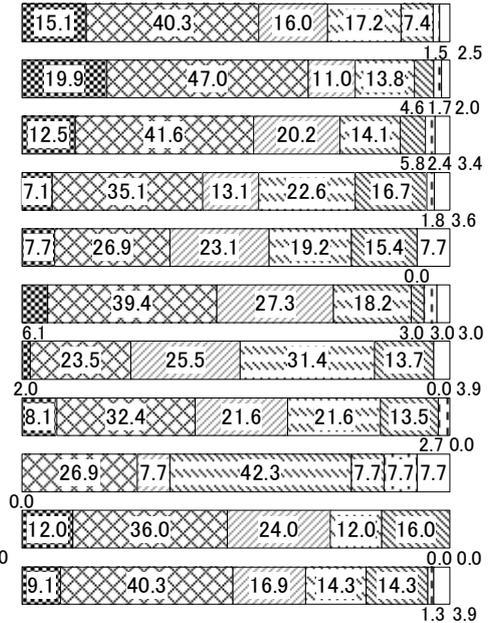
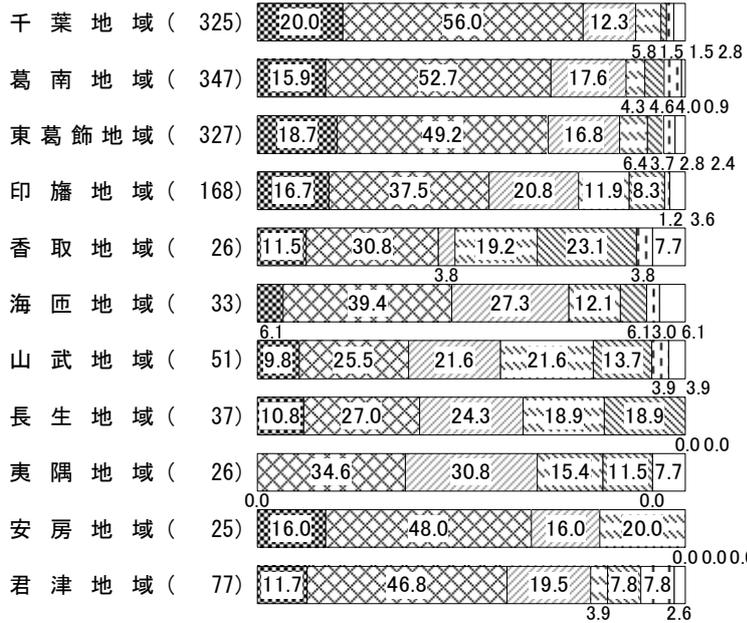
(ケ) 排水（下水道）の整備



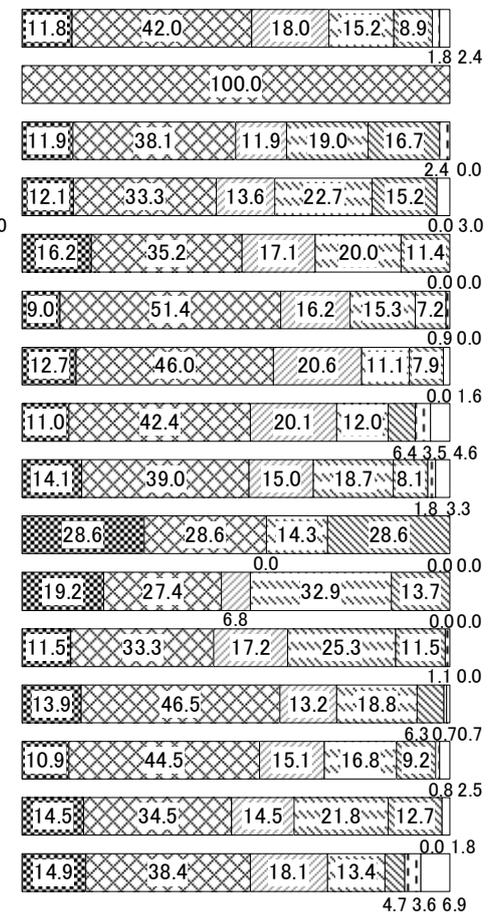
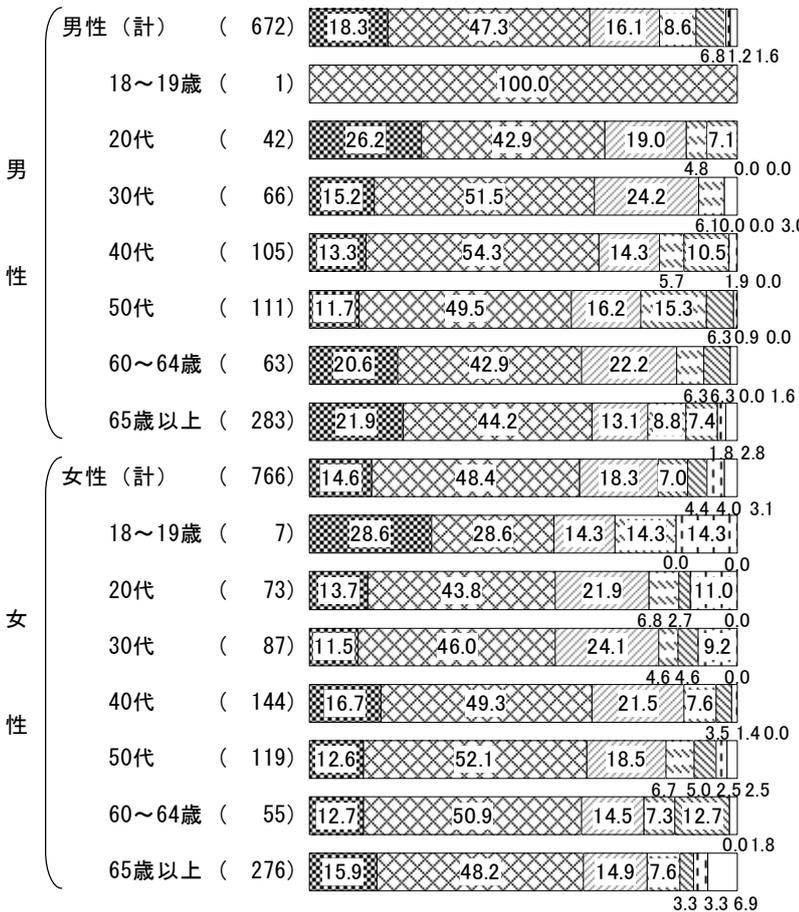
(コ) 通勤・通学の便



【地域別】

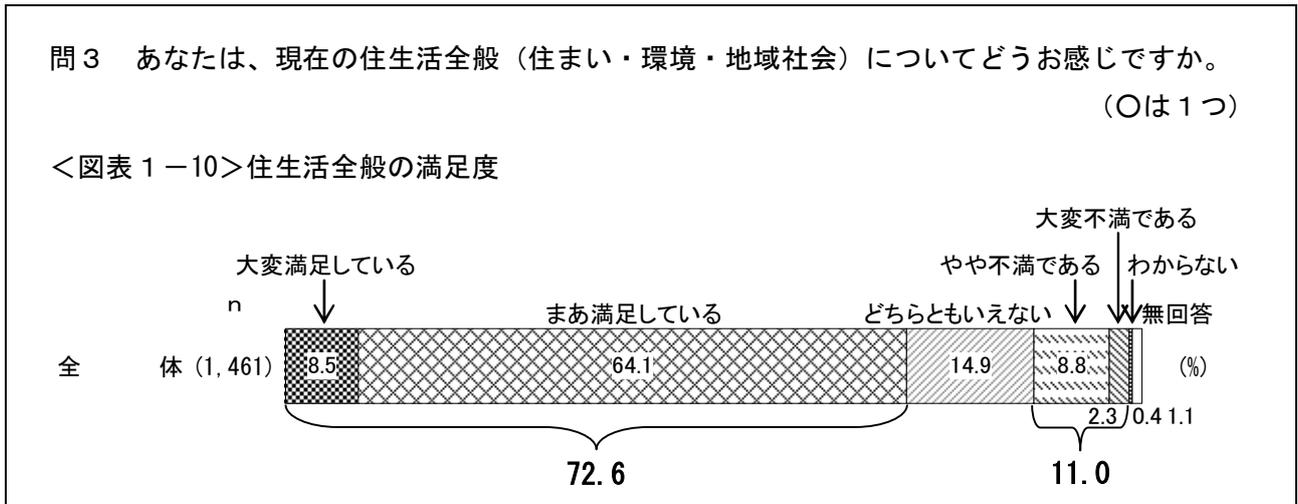


【性・年代別】



（3）住生活全般の満足度

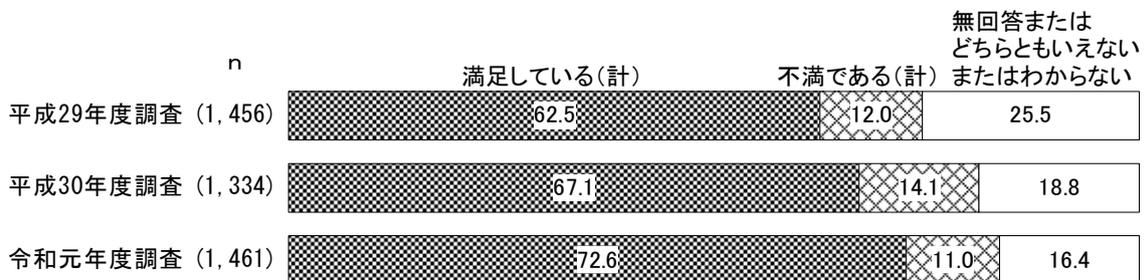
◇『満足している（計）』が7割を超える



現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（8.5%）と「まあ満足している」（64.1%）を合わせた『満足している（計）』（72.6%）が7割を超えて高くなっている。

一方、「やや不満である」（8.8%）と「大変不満である」（2.3%）を合わせた『不満である（計）』（11.0%）が1割を超えている。（図表1-10）

〔参考〕平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『満足している（計）』は“葛南地域”（80.4%）が8割で高くなっている。一方、『不満である（計）』は“夷隅地域”（26.9%）が2割台半ばで高くなっている。

（図表1-11）

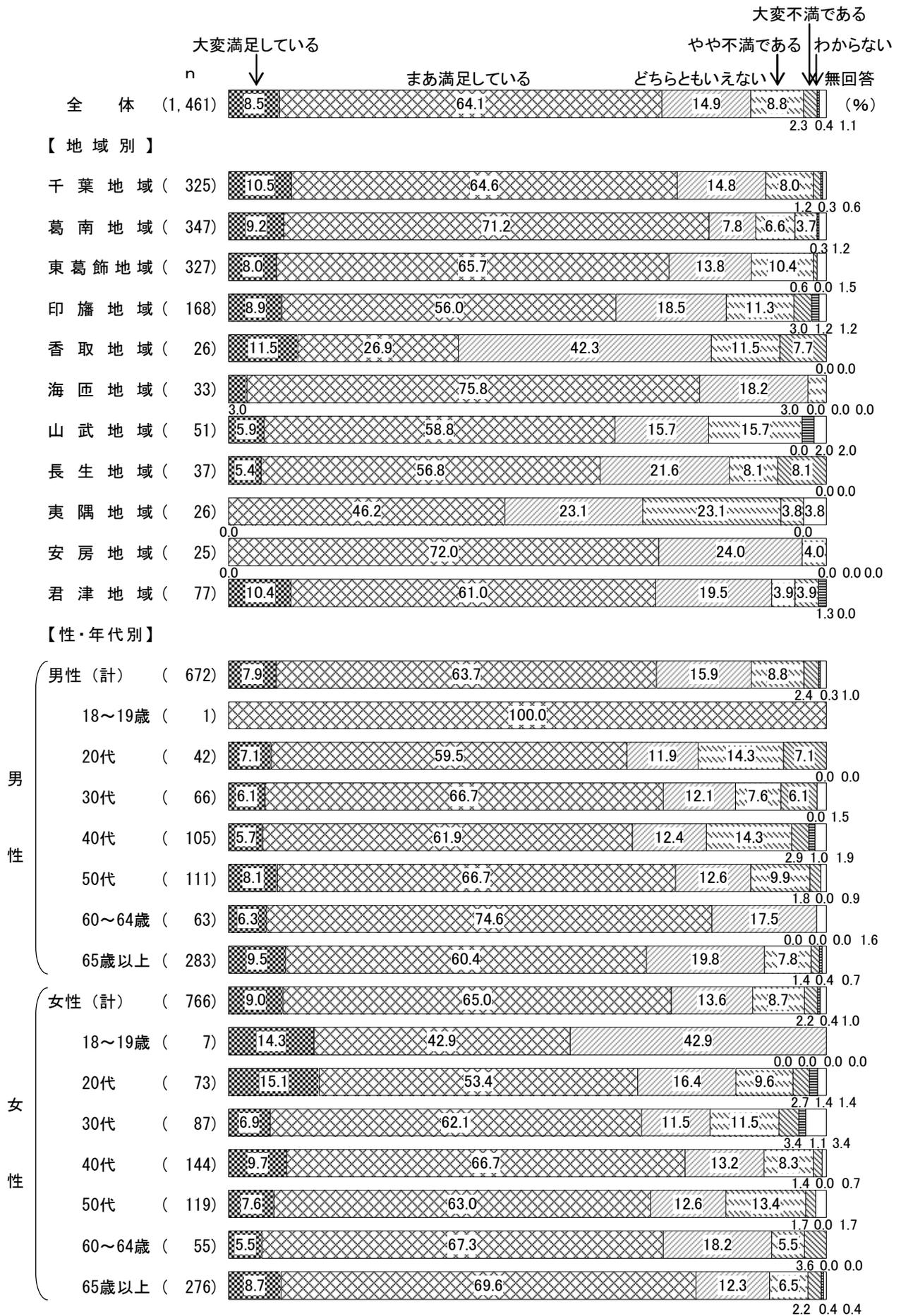
【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は女性の65歳以上（78.3%）が約8割で高くなっている。

一方、『不満である（計）』は男性の20代（21.4%）が2割を超えて高くなっている。

（図表1-11）

<図表1-11>住生活全般の満足度／地域別、性・年代別



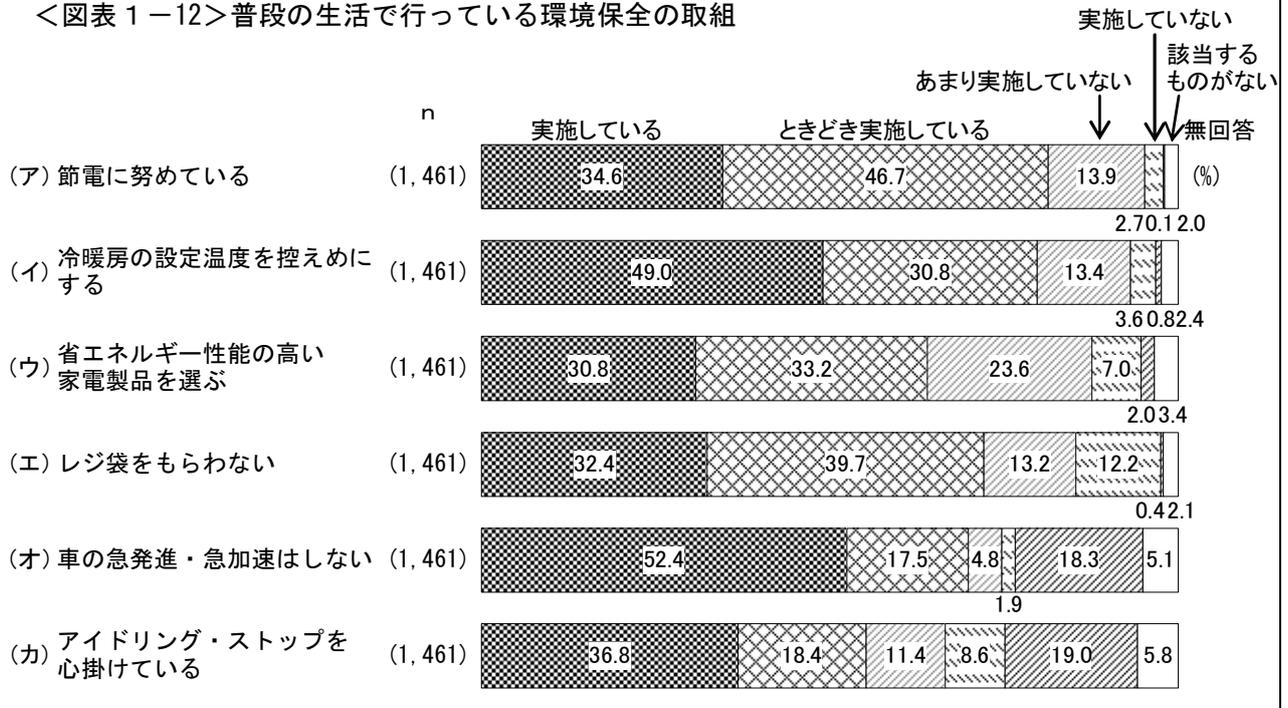
（４）普段の生活で行っている環境保全の取組

◇『実施している（計）』が最も高いのは〈節電に努めている〉で8割を超える

問４ あなたは、普段の生活で環境に配慮した次のような取り組みを行っていますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

＜図表 1－12＞ 普段の生活で行っている環境保全の取組

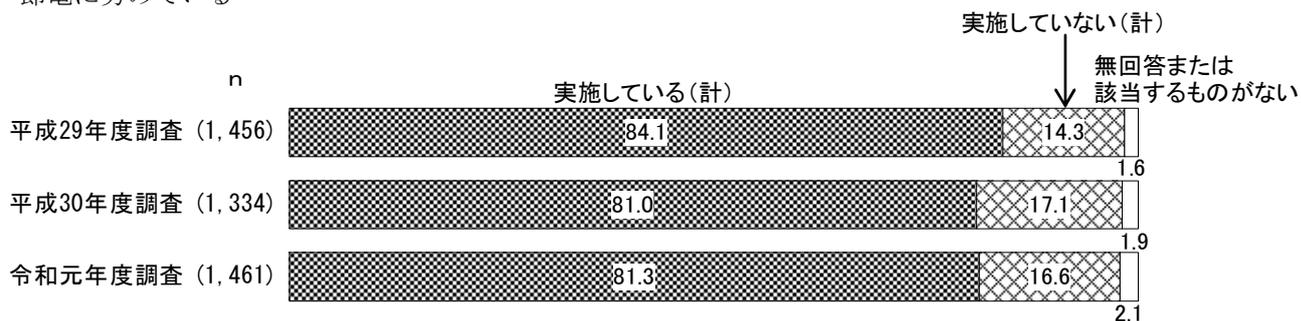


普段の生活で行っている環境保全の取組に関する6つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している（計）』が最も高いのは、「(ア) 節電に努めている」(81.3%)で8割を超えており、以下、「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」(79.8%)が約8割、「(エ) レジ袋をもらわない」(72.1%)が7割を超え、「(オ) 車の急発進・急加速はしない」(69.9%)が約7割で続く。

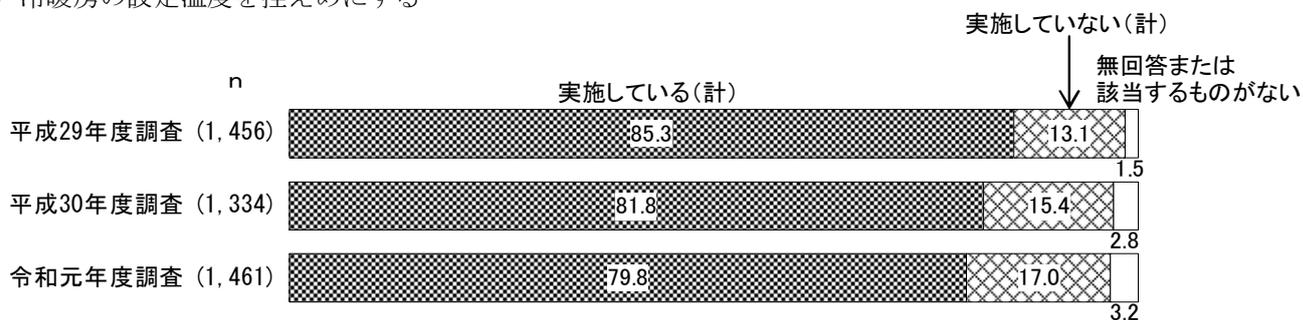
一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」(30.7%)で3割となっており、以下、「(エ) レジ袋をもらわない」(25.4%)が2割台半ば、「(カ) アイドリング・ストップを心掛けている」(20.0%)が2割で続く。(図表1－12)

〔参考〕平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

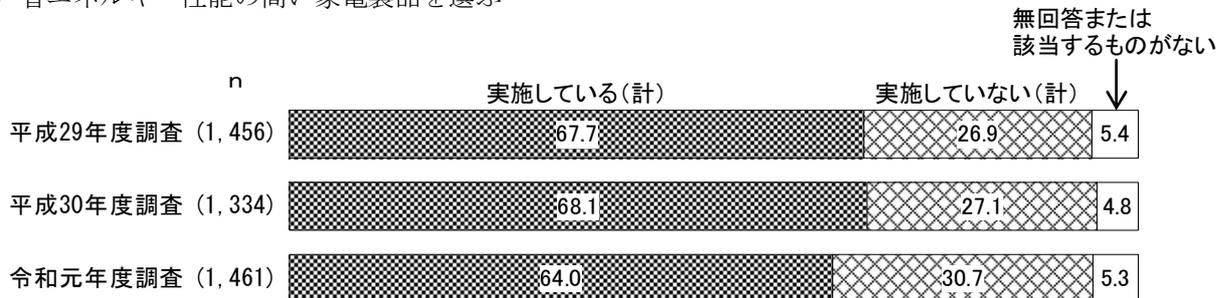
(ア) 節電に努めている



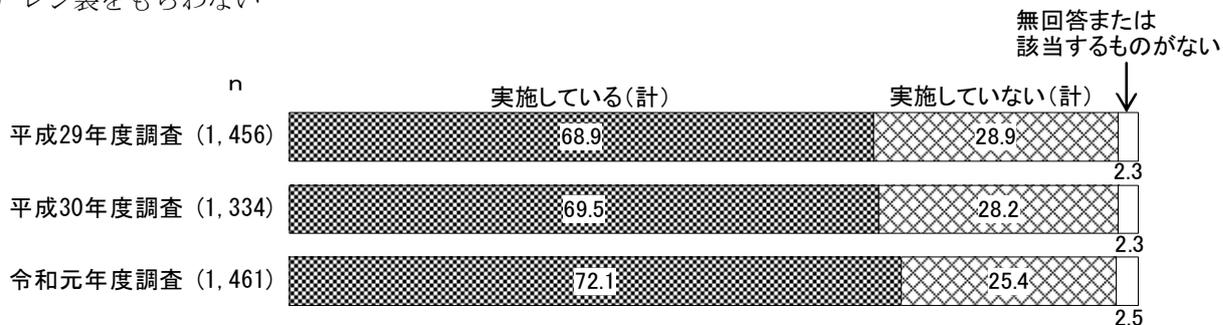
(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする



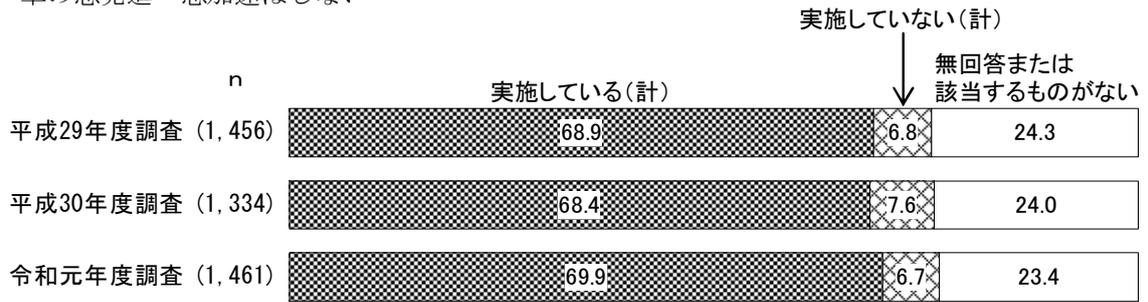
(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ



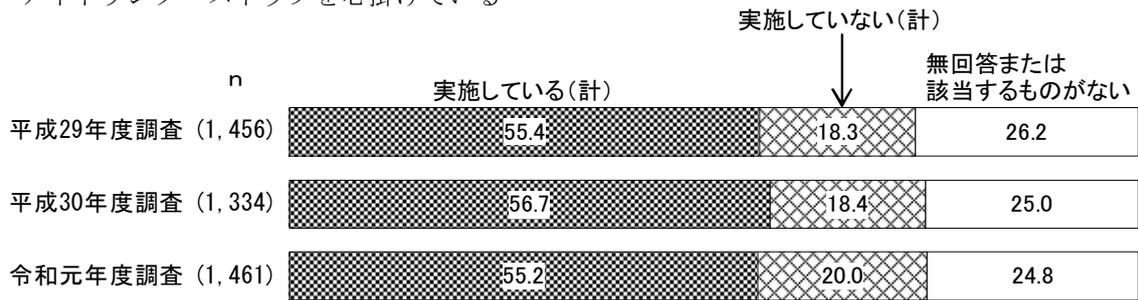
(エ) レジ袋をもらわない



(オ) 車の急発進・急加速はしない



(カ) アイドリング・ストップを心掛けている



【地域別】

地域別にみると、「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施している（計）』は“千葉地域”（71.1%）が7割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は“長生地域”（48.6%）が約5割で高くなっている。

「(エ) レジ袋をもらわない」の『実施していない（計）』は“安房地域”（44.0%）が4割台半ば、“海匝地域”（42.4%）が4割を超えて高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急加速はしない」の『実施している（計）』は“印旛地域”（81.0%）が8割を超えて高くなっている。

「(カ) アイドリング・ストップを心掛けている」の『実施している（計）』は“印旛地域”（67.9%）が約7割で高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は“長生地域”（40.5%）が4割で高くなっている。（図表1-13）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 節電に努めている」の『実施している（計）』は女性の65歳以上（87.7%）が約9割で高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の20代（38.1%）、男性の30代（39.4%）が約4割、男性の40代（29.5%）が約3割で高くなっている。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している（計）』は女性の50代（87.4%）が約9割、女性の65歳以上（85.1%）が8割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の30代（40.9%）が4割、男性の20代（35.7%）が3割台半ば、女性の20代（28.8%）が約3割、男性の40代（26.7%）が2割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施している（計）』は女性の50代（73.1%）が7割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の30代（50.0%）が5割、男性の20代（47.6%）と女性の20代（47.9%）が約5割、女性の30代（46.0%）が4割台半ばで高くなっている。

「(エ) レジ袋をもらわない」の『実施している（計）』は女性の40代（84.0%）、女性の50代（84.0%）が8割台半ば、女性の65歳以上（80.4%）が8割で高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の40代（37.1%）が約4割、男性の50代（36.9%）が3割台半ば、男性の65歳以上（32.2%）が3割を超えて高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急加速はしない」の『実施している（計）』は男性の50代（83.8%）が8割台半ば、男性の60～64歳（82.5%）が8割を超え、男性の40代（80.0%）と女性の40代（80.6%）が8割で高くなっている。

一方、『実施していない（計）』は男性の30代（21.2%）が2割を超えて高くなっている。

「(カ) アイドリング・ストップを心掛けている」の『実施している（計）』は女性の50代（66.4%）が6割台半ばで高くなっている。

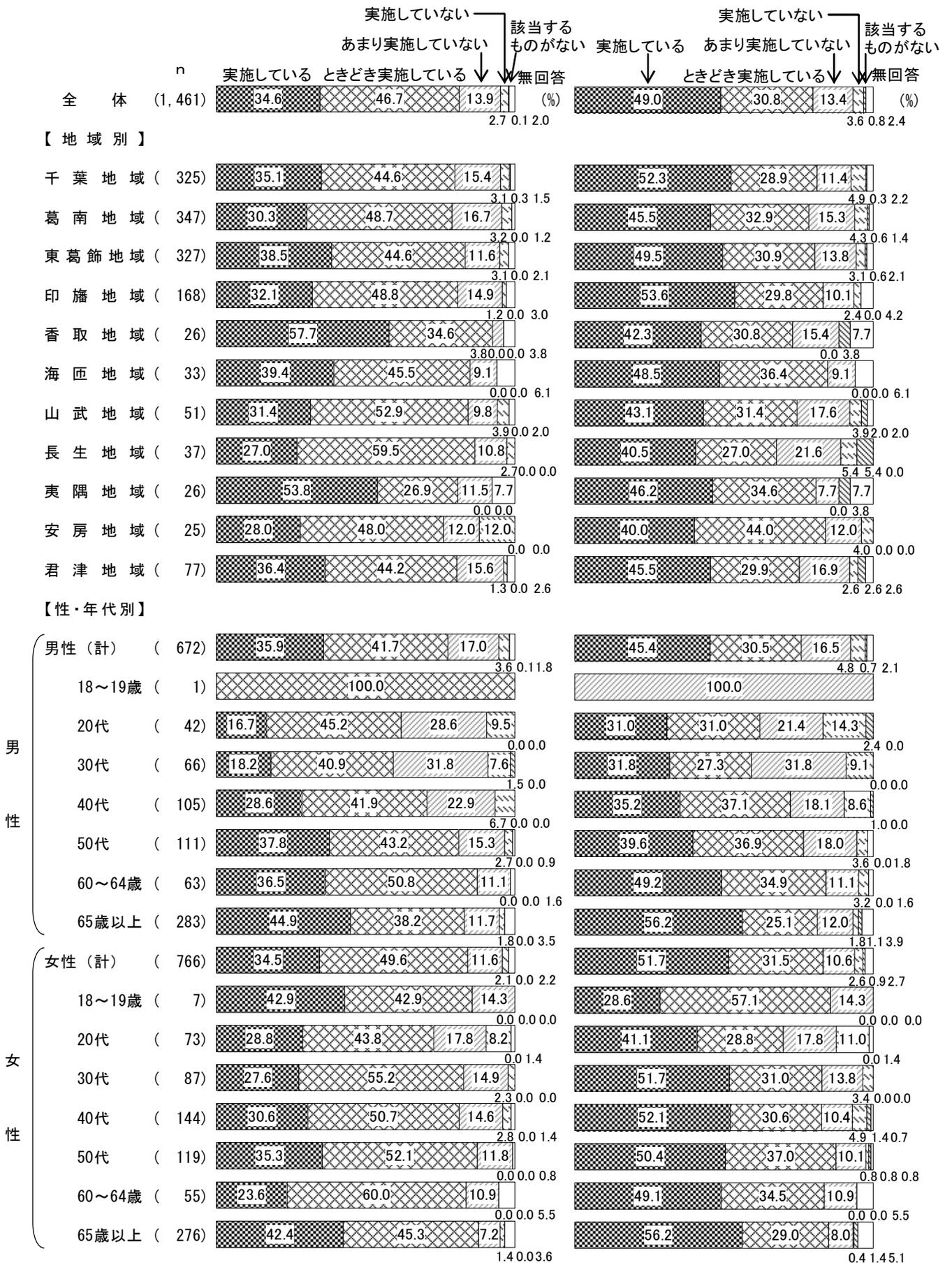
一方、『実施していない（計）』は男性の60～64歳（42.9%）が4割を超え、男性の30代（33.3%）、男性の50代（31.5%）が3割を超え、男性の40代（30.5%）が3割で高くなっている。

（図表1-13）

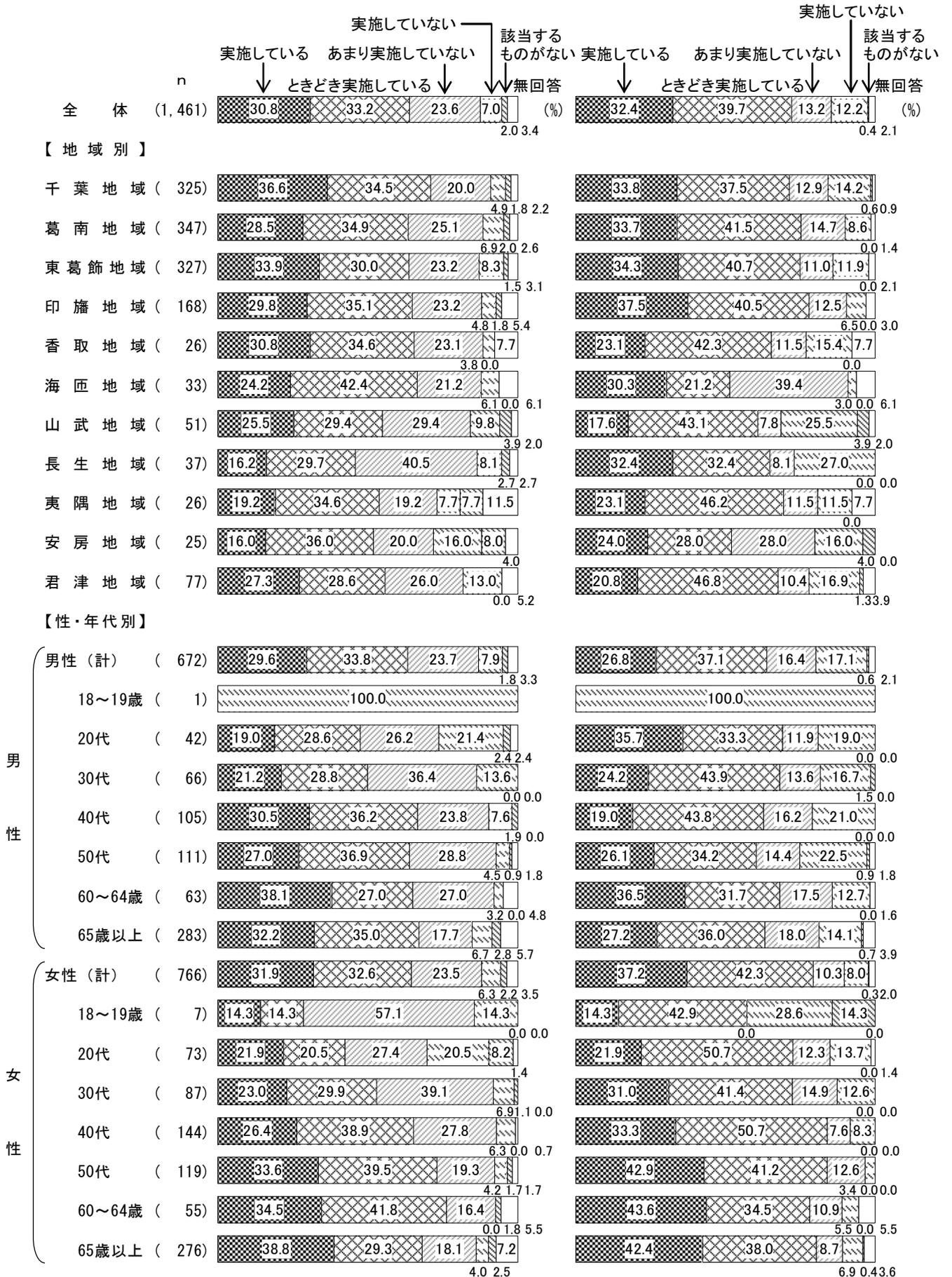
<図表1-13> 普段の生活で行っている環境保全の取組／地域別、性・年代別

(ア) 節電に努めている

(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする

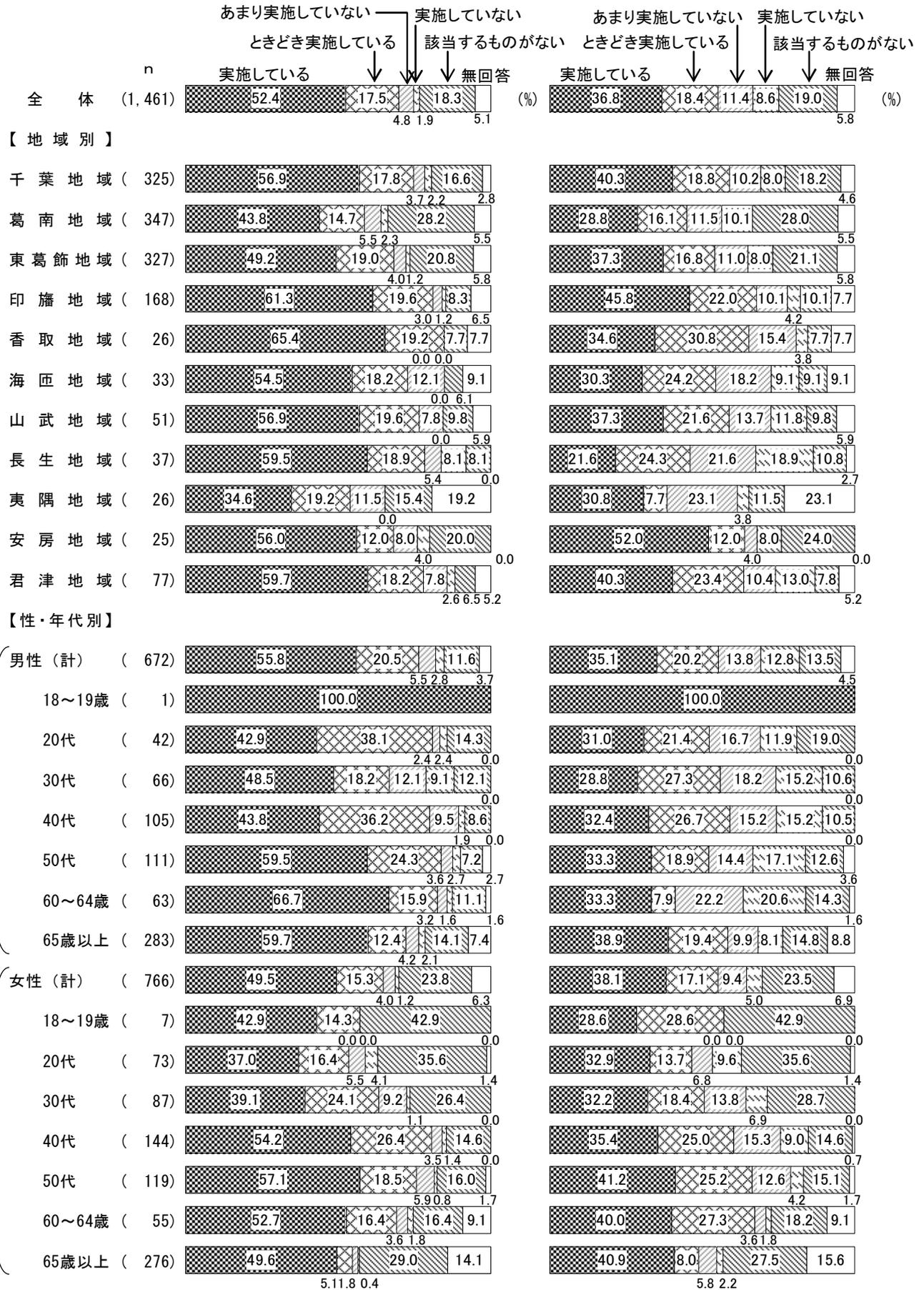


(ウ)省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ (エ) レジ袋をもらわない



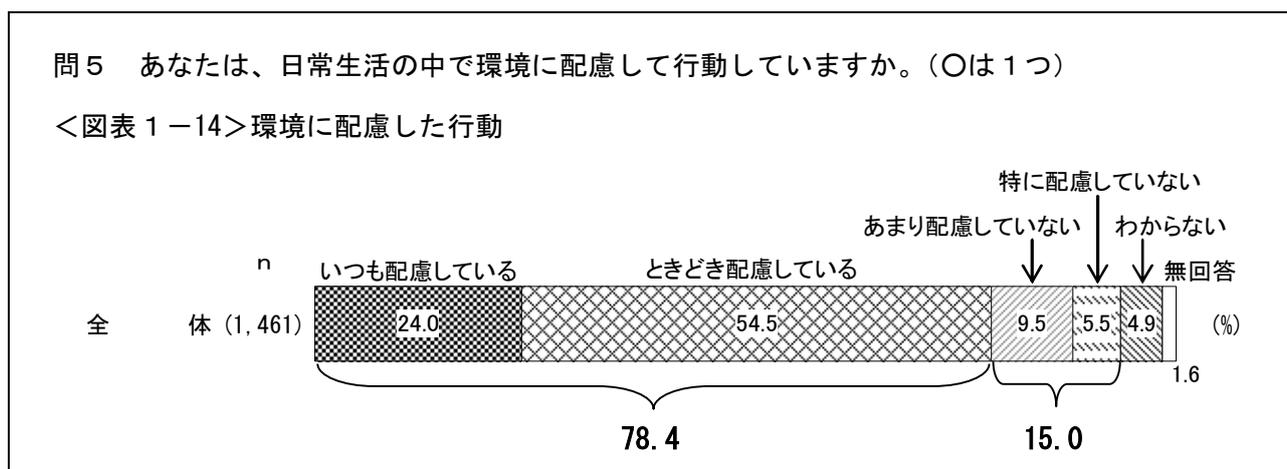
(オ) 車の急発進・急加速はしない

(カ) アイドリング・ストップを心掛けている



（5）環境に配慮した行動

◇『配慮している（計）』が約8割



日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」（24.0%）と「ときどき配慮している」（54.5%）を合わせた『配慮している（計）』（78.4%）が約8割で高くなっている。

一方、「あまり配慮していない」（9.5%）と「特に配慮していない」（5.5%）を合わせた『配慮していない（計）』（15.0%）が1割台半ばとなっている。（図表1-14）

〔参考〕平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



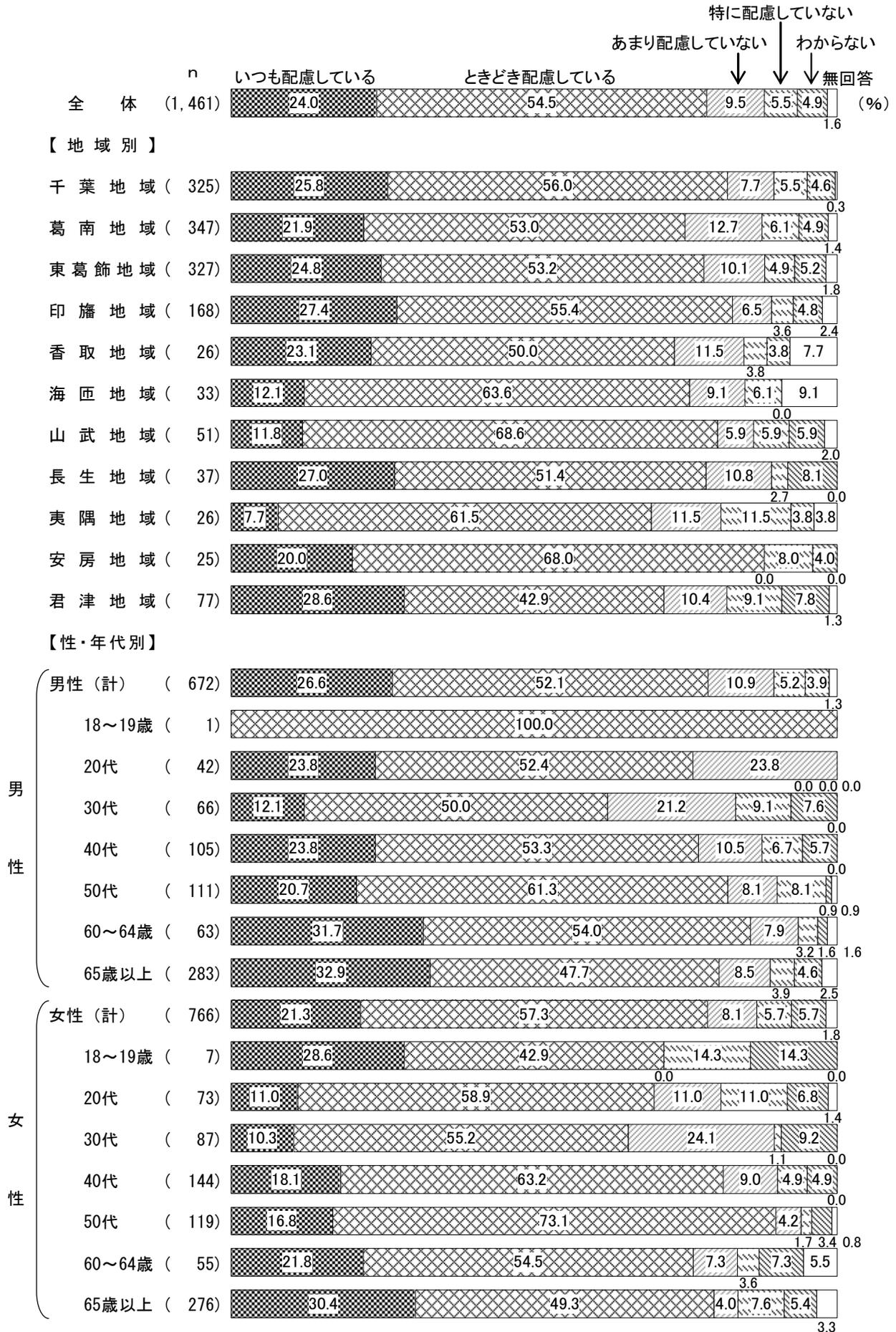
【地域別】

地域別にみると、「ときどき配慮している」は“山武地域”（68.6%）が約7割で高くなっている。（図表1-15）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『配慮している（計）』は女性の50代（89.9%）が約9割で高くなっている。一方、『配慮していない（計）』は男性の30代（30.3%）が3割、女性の30代（25.3%）が2割台半ばで高くなっている。（図表1-15）

<図表1-15>環境に配慮した行動／地域別、性・年代別

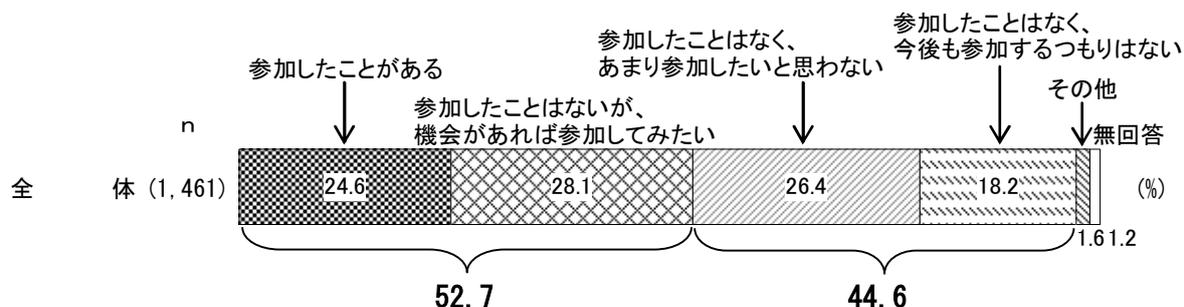


（6）環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへの参加状況

◇『参加意向あり（計）』が5割を超える

問6 あなたは、これまでに県・市町村などの行政や民間団体などが実施する環境保全に関する講演やセミナー、あるいは植林や清掃活動などの環境ボランティア活動などに参加したことがありますか。（○は1つ）

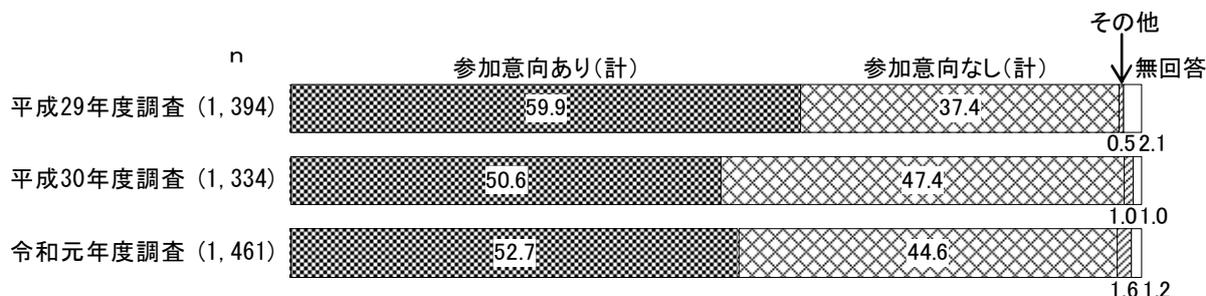
＜図表1-16＞環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへの参加状況



環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへの参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」（24.6%）が2割台半ばとなっており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」（28.1%）を合わせた『参加意向あり（計）』（52.7%）が5割を超えている。

一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」（26.4%）と「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」（18.2%）を合わせた『参加意向なし（計）』（44.6%）が4割台半ばとなっている。（図表1-16）

【参考】平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



（※）平成29年度調査は、「第55回県政に関する世論調査」の調査結果を掲載

【地域別】

地域別にみると、『参加意向あり（計）』は“千葉地域”（58.5%）が約6割で高くなっている。一方、『参加意向なし（計）』は“葛南地域”（53.0%）が5割を超えて高くなっている。

（図表1-17）

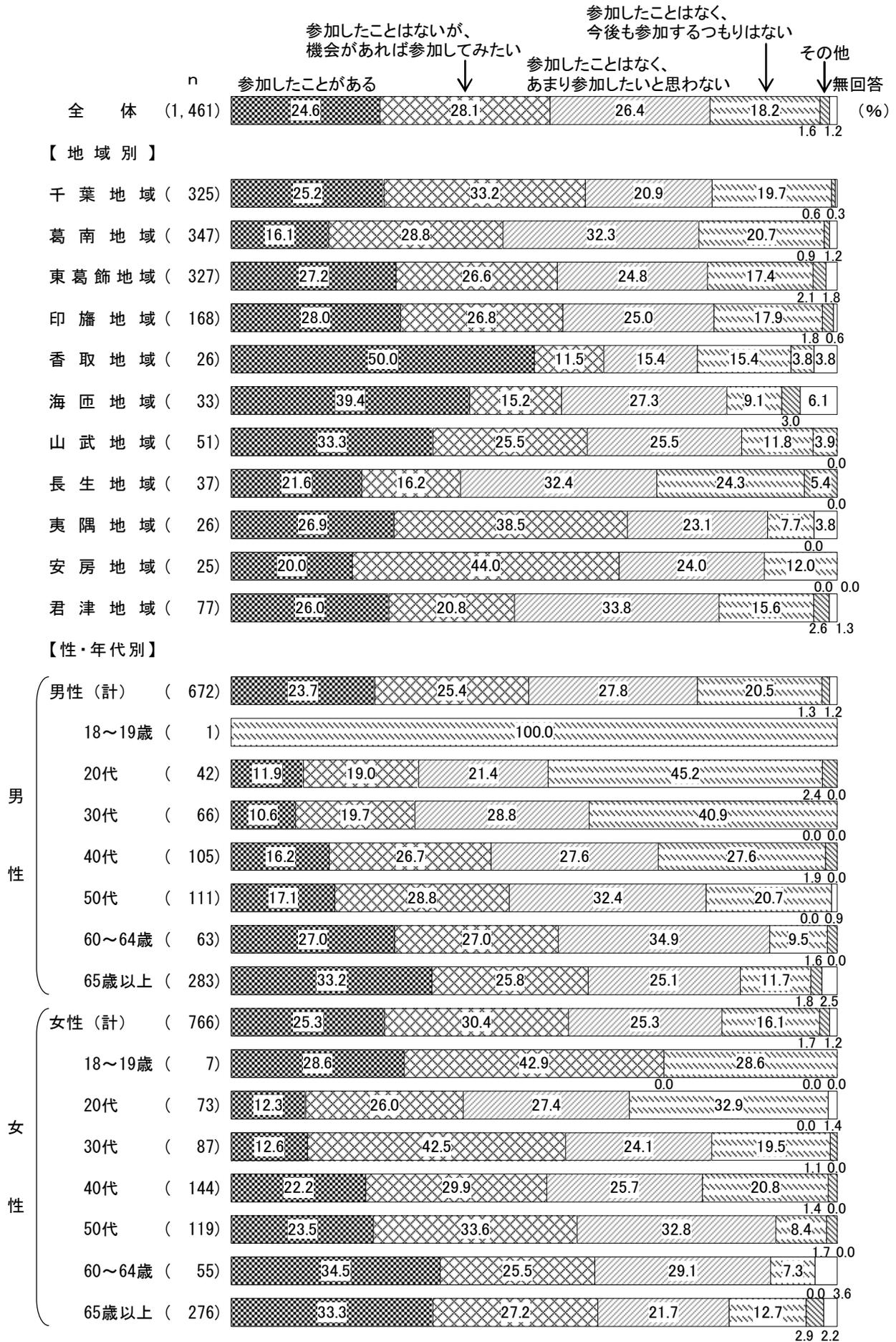
【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加意向あり（計）』は女性の65歳以上（60.5%）が6割、男性の65歳以上（59.0%）が約6割で高くなっている。

一方、『参加意向なし（計）』は男性の30代（69.7%）が約7割、男性の20代（66.7%）が6割台半ば、女性の20代（60.3%）が6割、男性の40代（55.2%）が5割台半ばで高くなっている。

（図表1-17）

<図表1-17>環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティアへの参加状況／地域別、性・年代別



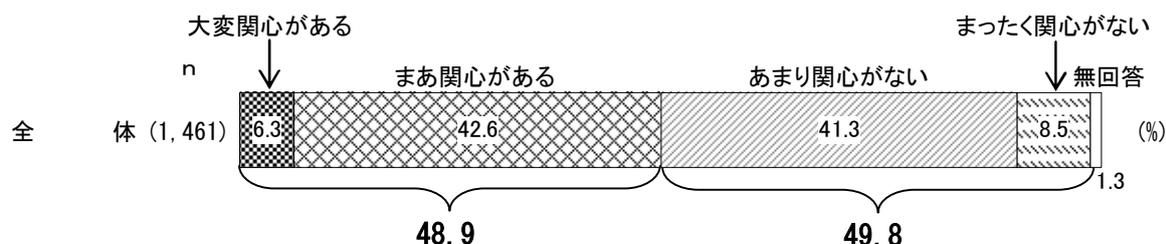
（7）市民活動団体やボランティア活動の関心度

◇『関心がある（計）』が約5割

問7 あなたは、市民活動団体の活動や、ボランティア活動に関心がありますか。（○は1つ）

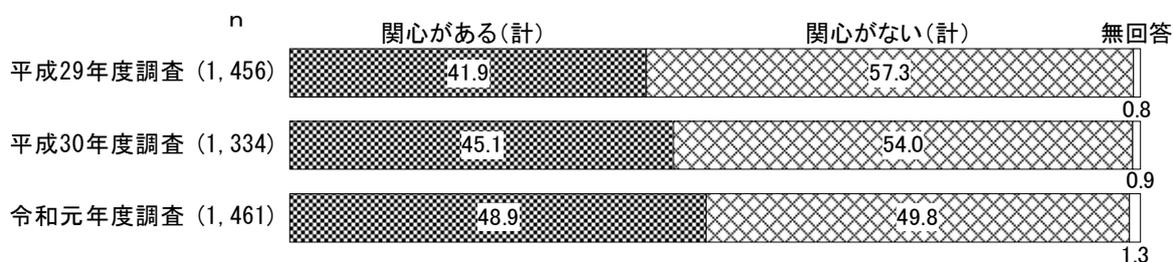
※ ここでいう「市民活動団体」とは、市民の自発性に基づき、福祉や子育て支援、まちづくり、環境等様々な分野の地域課題の解決のために、自立的・継続的に社会貢献活動を行う営利を目的としない団体（行政が認証したNPO法人やボランティア団体等任意団体）を指します。

<図表1-18>市民活動団体やボランティア活動の関心度



市民活動団体の活動や、ボランティア活動の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(6.3%)と「まあ関心がある」(42.6%)を合わせた『関心がある(計)』(48.9%)が約5割となっている。一方、「あまり関心がない」(41.3%)と「まったく関心がない」(8.5%)を合わせた『関心がない(計)』(49.8%)が約5割となっている。(図表1-18)

〔参考〕平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「まあ関心がある」は“香取地域” (65.4%) が6割台半ばで高くなっている。(図表1-19)

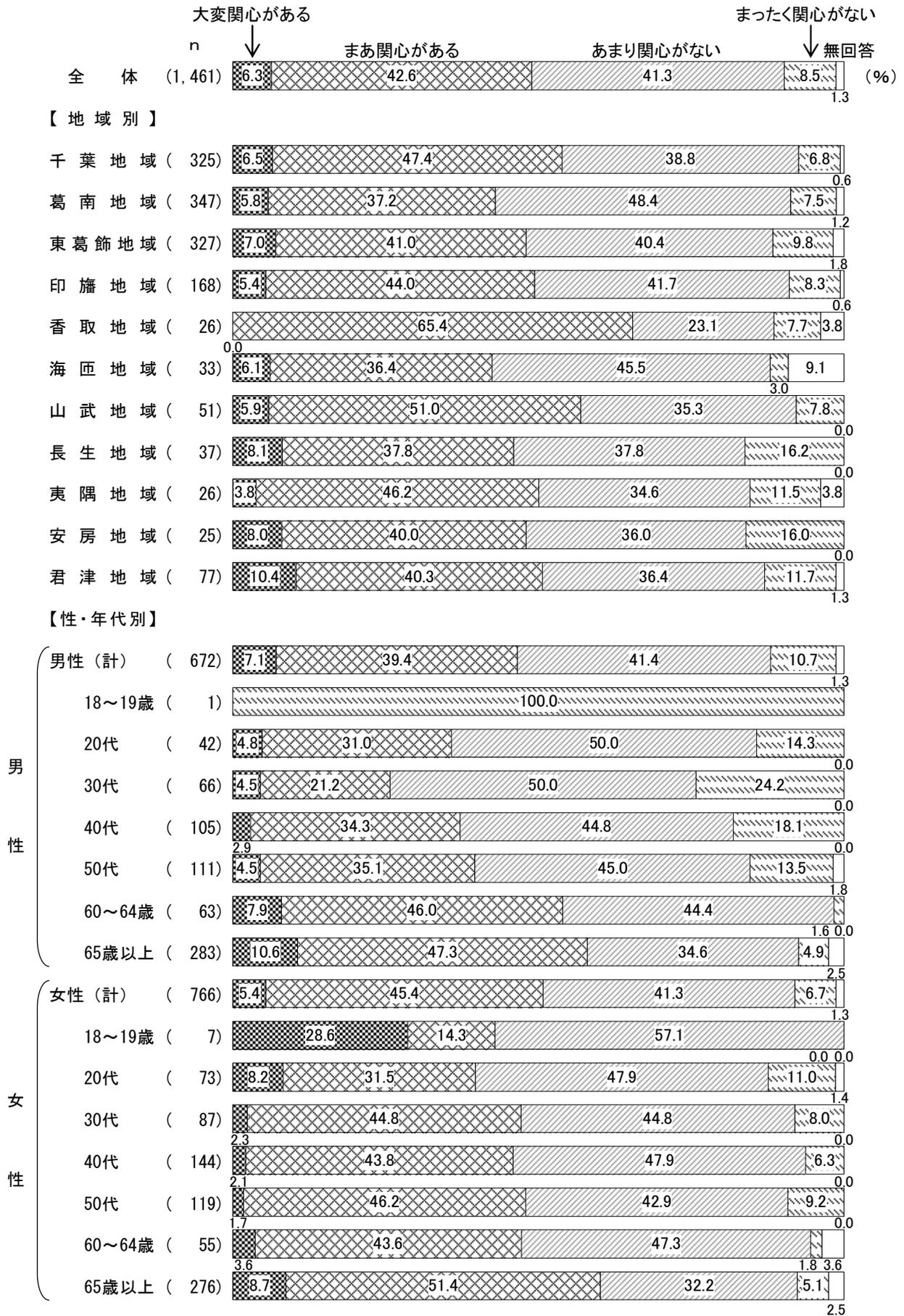
【性・年代別】

性・年代別にみると、「まあ関心がある」は女性の65歳以上 (51.4%) が5割を超えて高くなっている。

一方、「まったく関心がない」は男性の30代 (24.2%) が2割台半ばで高くなっている。

(図表1-19)

<図表1-19>市民活動団体やボランティア活動の関心度／地域別、性・年代別



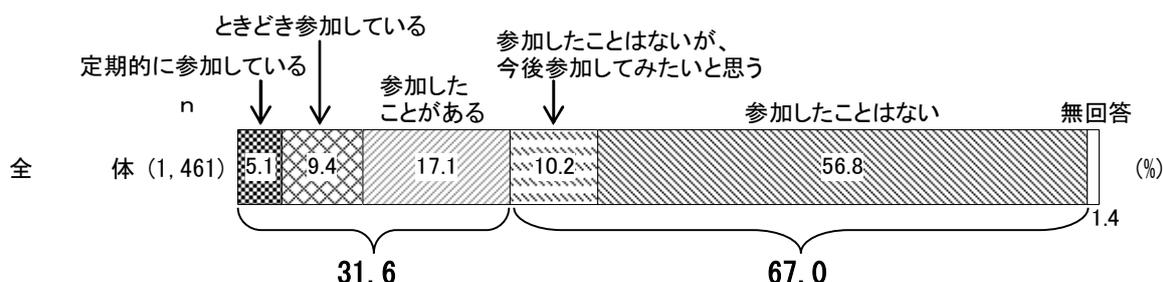
（8）市民活動団体の活動への参加経験

◇『参加したことがある（計）』が3割を超える

問8 あなたは、市民活動団体の活動に参加したことがありますか。（○は1つ）

※ ここでいう「参加」とは、団体の会員やボランティアとしての参加のみならず、団体への資金・物品・技術・場所等の提供・寄付などの支援を通しての参加や、団体が提供するサービスの利用・イベントへの参加などを指します。

＜図表1-20＞市民活動団体の活動への参加経験

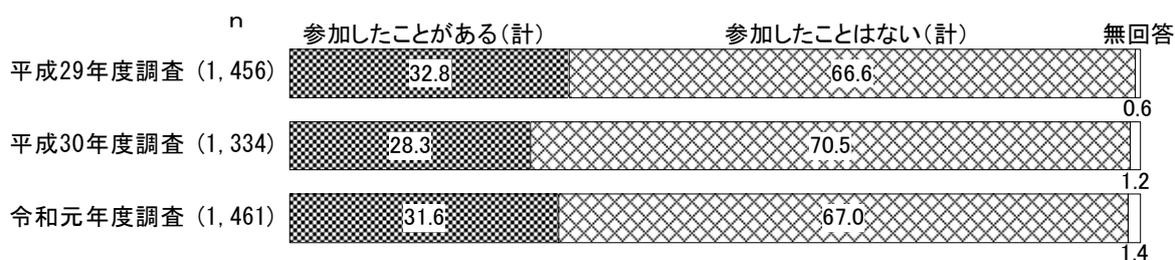


市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」(5.1%)、「ときどき参加している」(9.4%)、「参加したことがある」(17.1%)の3つを合わせた『参加したことがある(計)』(31.6%)が3割を超えている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」(10.2%)と「参加したことはない」(56.8%)を合わせた『参加したことはない(計)』(67.0%)が約7割で高くなっている。

(図表1-20)

〔参考〕平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

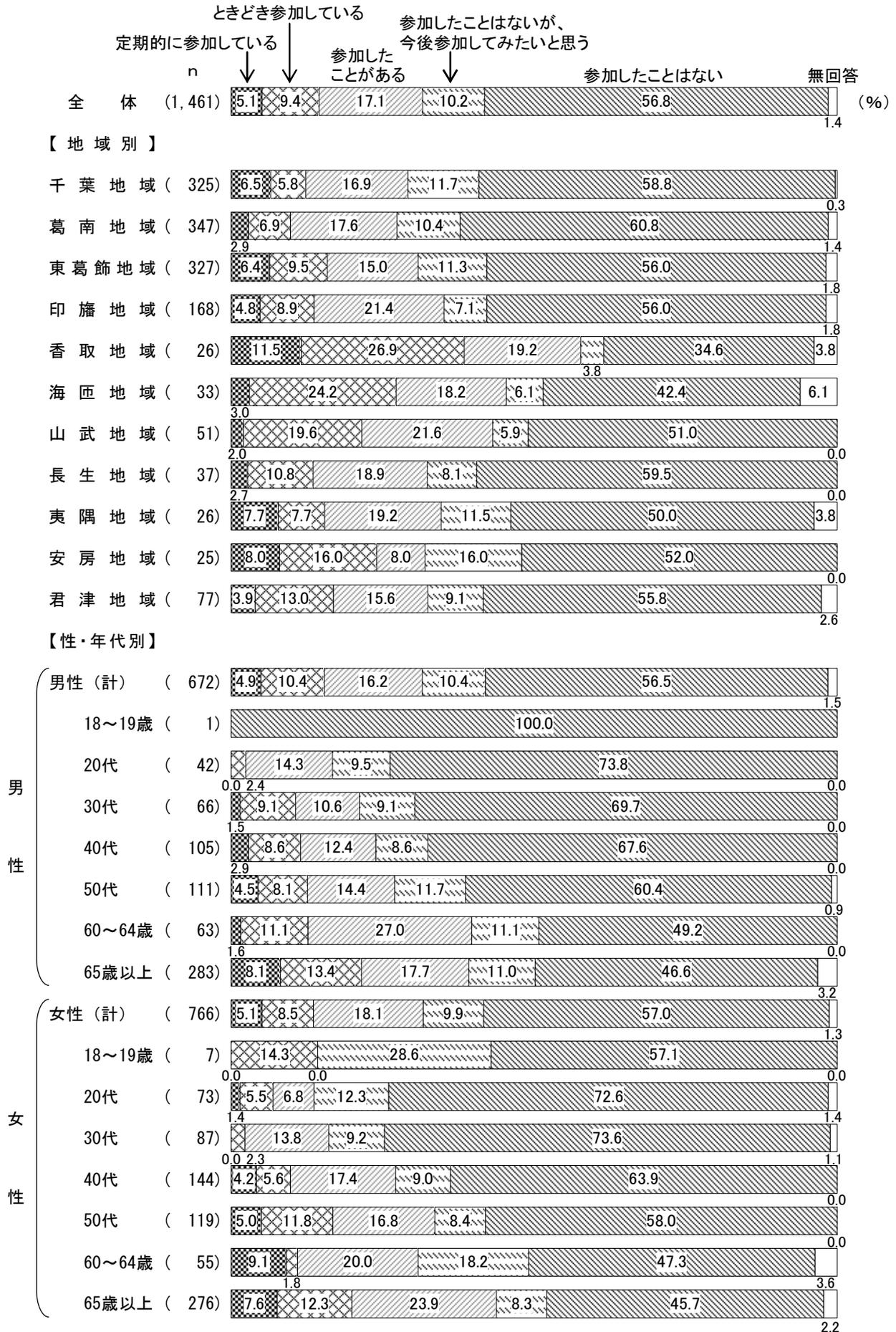
地域別にみると、『参加したことがある(計)』は“香取地域”(57.7%)が約6割で高くなっている。(図表1-21)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加したことがある(計)』は女性の65歳以上(43.8%)が4割台半ば、男性の65歳以上(39.2%)が約4割で高くなっている。

一方、『参加したことはない(計)』は女性の20代(84.9%)が8割台半ば、男性の20代(83.3%)と女性の30代(82.8%)が8割を超え、男性の30代(78.8%)が約8割、男性の40代(76.2%)が7割台半ばで高くなっている。(図表1-21)

<図表1-21>市民活動団体の活動への参加経験/地域別、性・年代別



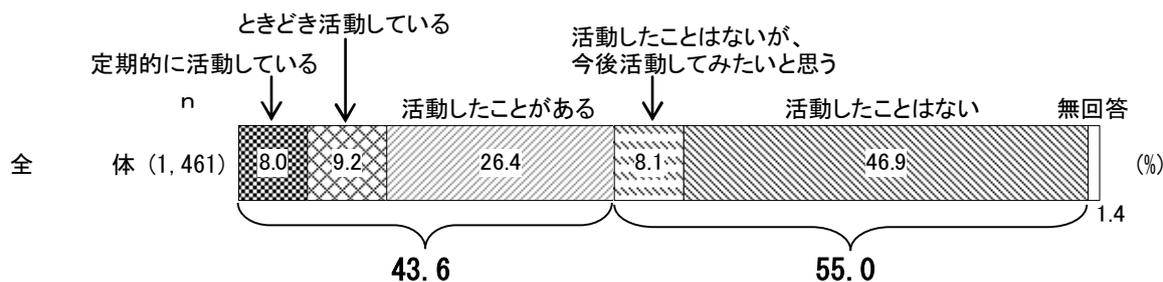
（9）ボランティア活動経験

◇『活動したことがある（計）』が4割台半ば

問9 あなたは、ボランティアとして活動したことがありますか。（○は1つ）

※ ここでいう「ボランティア活動」とは、市民の自発性に基づき地域や社会に貢献する活動（町会・自治会の活動、PTAの活動や学校行事の手伝い、子供会の活動、交通安全運動、道路や公園等の清掃なども含む）のことであり、市民活動団体が行うボランティア活動への参加のみならず、個人として行うものを含むボランティア活動全般を指します。

＜図表1-22＞ボランティア活動経験

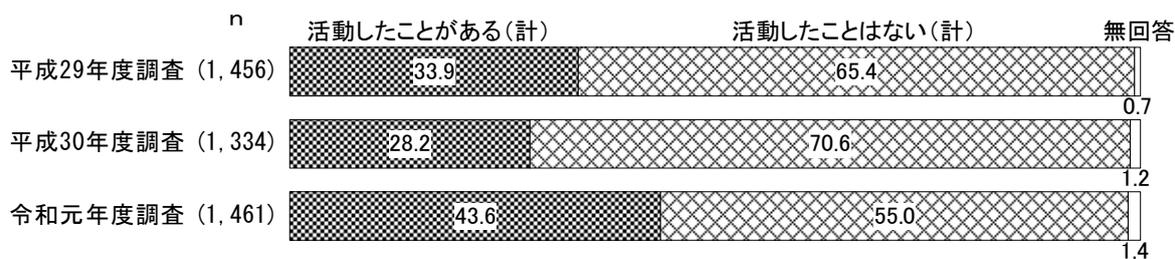


ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的活動中」(8.0%)、「時々活動中」(9.2%)、「活動したことがある」(26.4%)の3つを合わせた『活動したことがある(計)』(43.6%)が4割台半ばとなっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(8.1%)と「活動したことはない」(46.9%)を合わせた『活動したことはない(計)』(55.0%)が5割台半ばとなっている。

(図表1-22)

〔参考〕平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



(※) 令和元年度調査から「ボランティア活動」の説明を変更した。平成29年度・平成30年度の説明は以下のとおりである。「ここでいう『ボランティア活動』とは、市民の自発性に基づき地域や社会に貢献する活動のことであり、市民活動団体が行うボランティア活動への参加のみならず、個人として行うものを含むボランティア活動全般を指します。」

【地域別】

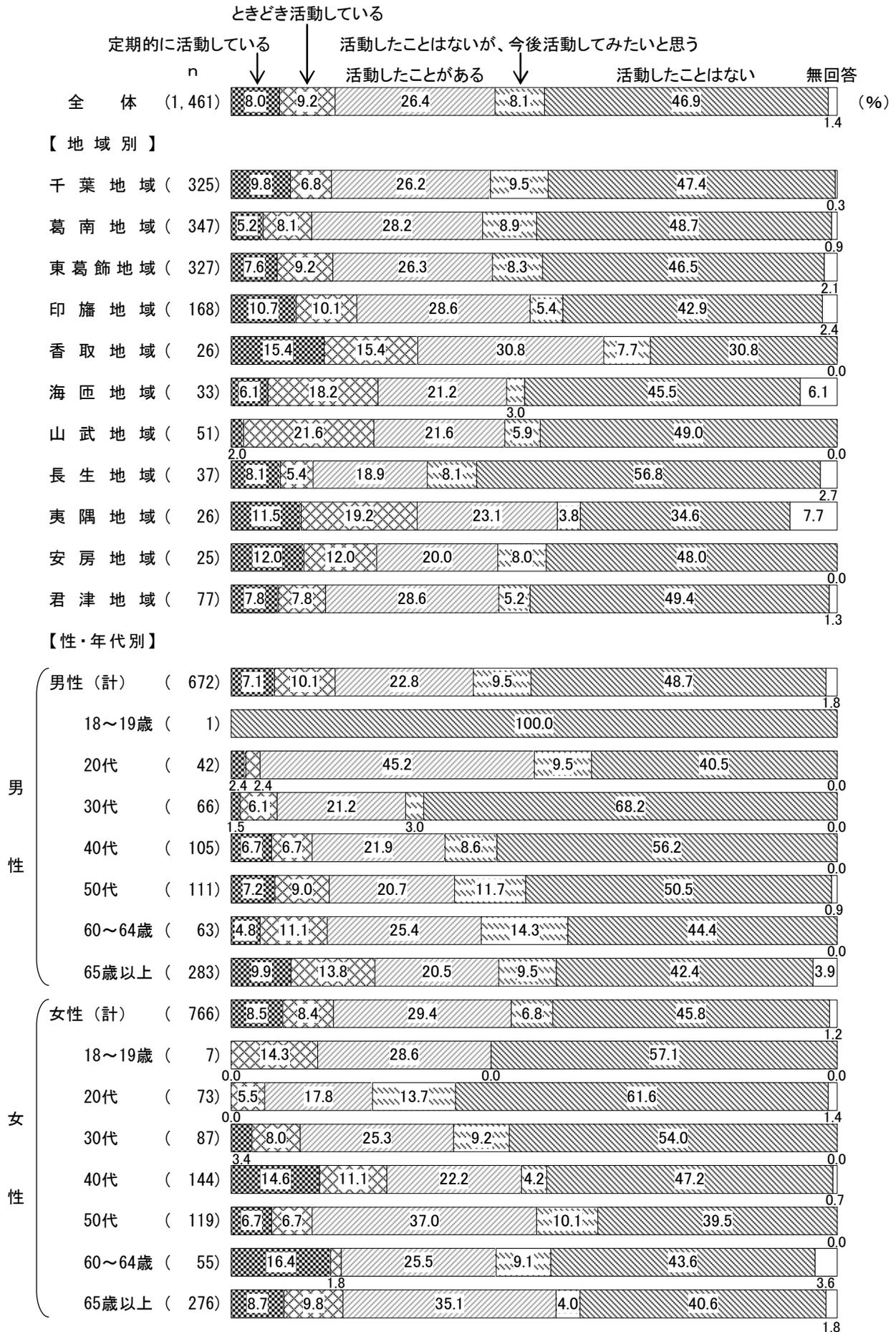
地域別にみると、「時々活動中」は“山武地域”(21.6%)が2割を超えて高くなっている。(図表1-23)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『活動したことがある(計)』は女性の65歳以上(53.6%)が5割台半ばで高くなっている。

一方、『活動したことはない(計)』は女性の20代(75.3%)が7割台半ば、男性の30代(71.2%)が7割を超え、男性の40代(64.8%)が6割台半ばで高くなっている。(図表1-23)

<図表1-23> ボランティア活動経験／地域別、性・年代別



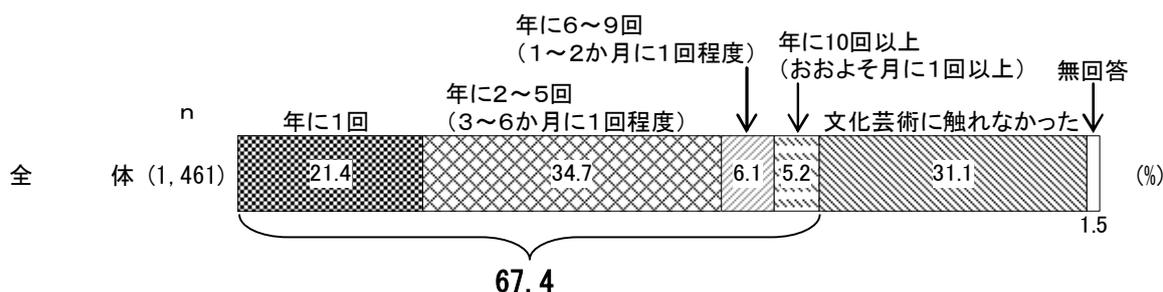
(10) この1年間の文化芸術に触れた頻度

◇『触れたことがある（計）』が約7割

問10 あなたは、県内の施設などでこの1年間に何回くらい文化芸術に触れましたか。（○は1つ）

※ ここでいう「文化芸術」とは、映画（アニメ含む）、音楽（クラシックやポップス等）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財など幅広いジャンルの文化芸術を指します。「触れる」とは映画・舞台公演・展覧会等の鑑賞、祭り等への参加、演奏・創作活動、史跡めぐり、読書などを指します。

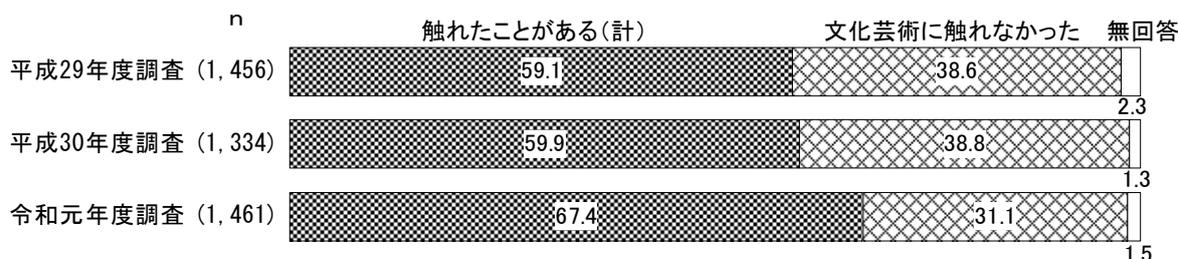
<図表1-24>この1年間の文化芸術に触れた頻度



この1年間で何回くらい文化芸術に触れたか聞いたところ、「年に1回」(21.4%)、「年に2～5回(3～6か月に1回程度)」(34.7%)、「年に6～9回(1～2か月に1回程度)」(6.1%)、「年に10回以上(おおよそ月に1回以上)」(5.2%)の4つを合わせた『触れたことがある(計)』(67.4%)が約7割で高くなっている。

一方、「文化芸術に触れなかった」(31.1%)が3割を超えている。(図表1-24)

〔参考〕平成29年度・平成30年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



(※) 令和元年度調査から、「文化芸術」の説明を変更した。平成29年度・平成30年度の説明は以下のとおりである。
「ここでいう『文化芸術』とは、映画（アニメ含む）、音楽（クラシックやポップス等）、美術、文芸（マンガ含む）、茶道・華道、芸能、文化財など幅広いジャンルの文化芸術を指します。『触れる』とは映画・舞台公演・展覧会等の鑑賞、祭り等への参加、演奏・創作活動、史跡めぐり、読書などを指します。」

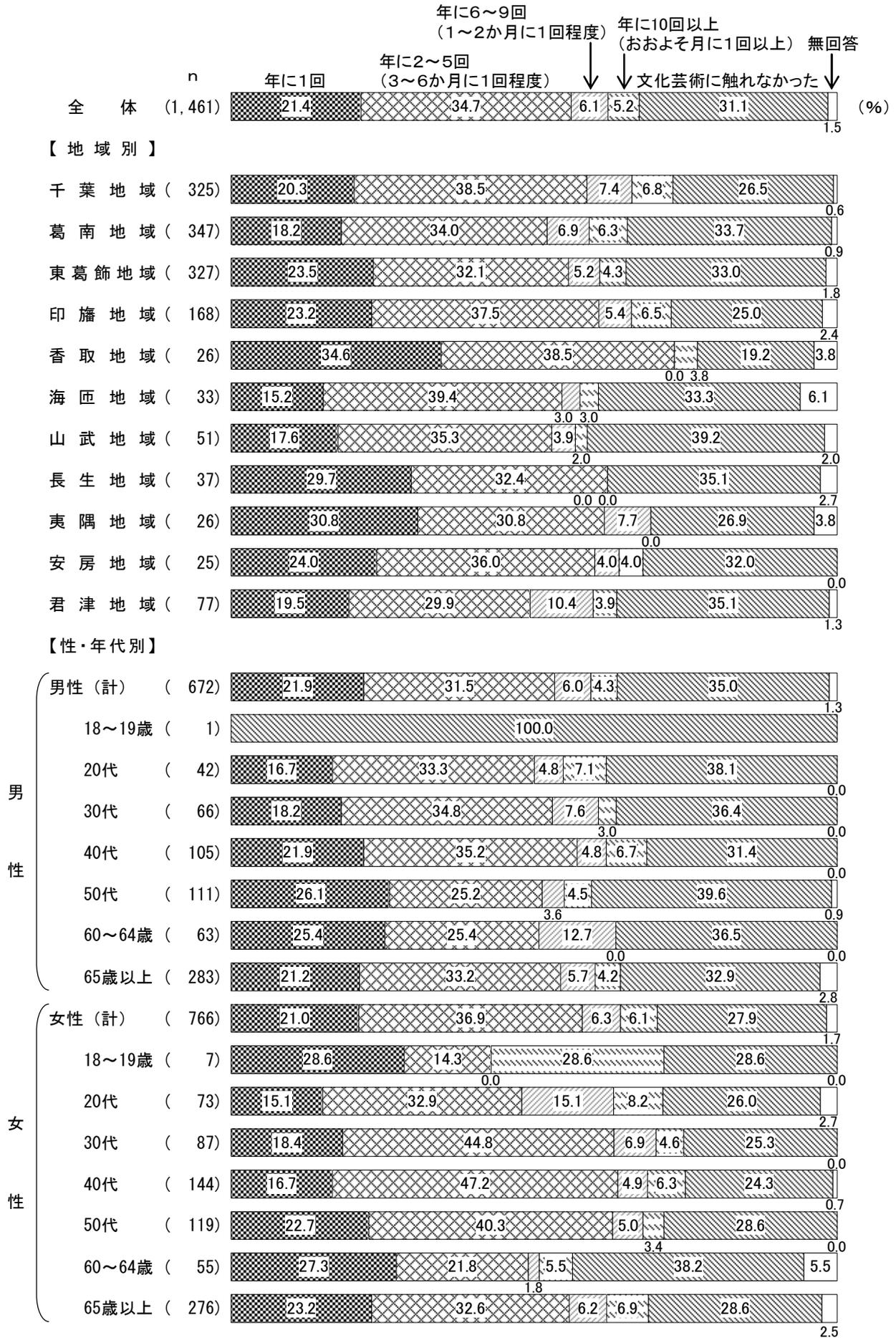
【地域別】

地域別にみると、『触れたことがある（計）』は“千葉地域”（72.9%）が7割を超えて高くなっている。(図表1-25)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「年に2～5回(3～6か月に1回程度)」は女性の40代(47.2%)が約5割、女性の30代(44.8%)が4割台半ばで高くなっている。(図表1-25)

<図表1-25>この1年間の文化芸術に触れた頻度／地域別、性・年代別

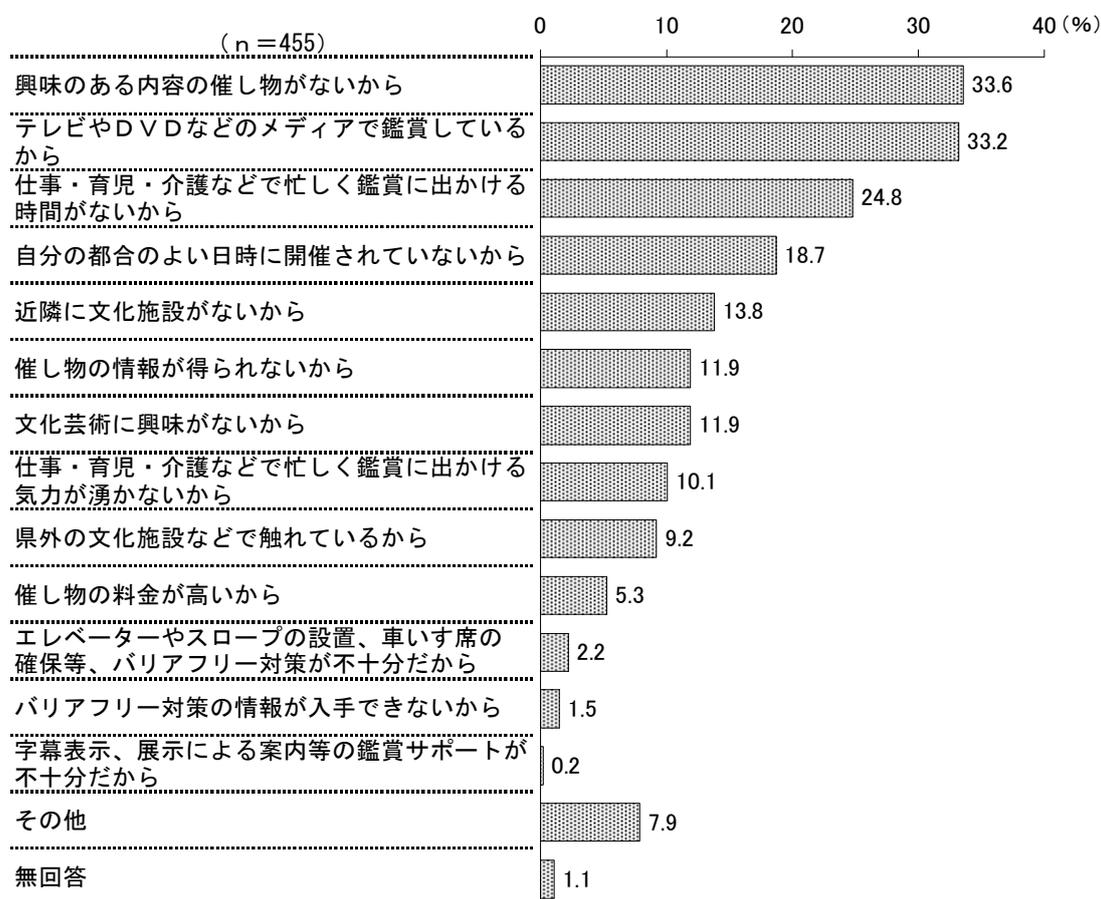


（10－1）文化芸術に触れなかった理由

◇「興味のある内容の催し物がないから」が3割台半ば

（問10で「文化芸術に触れなかった」とお答えの方に）
問10－1 その主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表1－26＞文化芸術に触れなかった理由（複数回答）



「文化芸術に触れなかった」と回答した455人を対象に、文化芸術に触れなかった理由を聞いたところ、「興味のある内容の催し物がないから」（33.6%）が3割台半ばで最も高く、以下、「テレビやDVDなどのメディアで鑑賞しているから」（33.2%）、「仕事・育児・介護などで忙しく鑑賞に出かける時間がないから」（24.8%）が続く。（図表1－26）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（10ページ「報告書の見方（6）」を参照）

（図表1－27）

<図表1-27>文化芸術に触れなかった理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）

